

平成27年度
外部評価報告書
—付属高等学校・中学校—

日本大学

目 次

外部評価結果総括（各校）

日本大学高等学校・中学校	1
櫻丘高等学校	6
鶴ヶ丘高等学校	13
藤沢高等学校・中学校	21
豊山高等学校・中学校	26
豊山女子高等学校・中学校	31
三島高等学校・中学校	37
明誠高等学校	42
山形高等学校	46
習志野高等学校	51
東北高等学校	57

資 料

実施要項	62
外部評価票様式	64
外部評価学校評価票（評価者用様式）	
外部評価学校評価票（総括用様式）	

平成27年度 日本大学高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、日本大学高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者4名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・スクールバスの運行
- ・セキュリティールームの対応
- ・防災避難訓練の日程
- ・管理職の連携体制

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・朝と夕方の生徒通学時にしっかりと計算の下でスクールバスの運行が設計されており、生徒が事故やトラブルに巻き込まれることのリスク回避に取り組んでいる。
- ・警備室での校内外の監視体制も細やかに構築されており、広大な敷地、入り組んだ校舎の中での安全管理、危機回避に向けた体制が組まれている。
- ・セキュリティールームは監視カメラ台数、放送での注意喚起、電話対応等、十分に機能している。
- ・防災避難訓練の4月実施は多忙ではあるが、新入生の入学を考えると大変意義がある。
- ・中学と高校の管理職が別職員室に在籍し、安全管理等の重要な判断を即座に行えない学校も多いが、日本大学高校・中学校は中学教頭と高校教頭が同じ執務室で業務に当たり、連携と対応がスムーズに行える体制になっている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・不審者に対する生徒の安全確保と初めて来校する訪問客の案内や誘導のために、正門にセキュリティールームが必要だと感じた。セキュリティールームの正門移動は難しいかもしれないが、いずれにしても場所は分かりにくいので、案内看板をもう少し分かりやすくした方が良いと思われる。
- ・エレベーターが救急用ストレッチャーが入らないサイズになっている点は改善が必要だと感じた。
- ・部活動では体育館の3階スペースでランニングをしている様子も見られたが、誤って生徒や物が落下する事故の発生も想定し、ネットを張るなどの対応の検討が必要ではないかと感じた。
- ・各教室からの避難経路掲示は普通教室のみでなく、生徒が出入りする場所全てに必要だと考える。
- ・避難経路は掲示するだけでなく、各教室からの経路が生徒に分かるようにルートに色を付ける等、教室の目立つところの掲示なども検討した方が良いと考える。

その他気づいた点、疑問点など

- ・特になし。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保健室、相談室の利用と対応
- ・生徒のメンタルヘルス対応
- ・いじめ発生時の対応

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・保健室から相談室に入室できるというレイアウトは生徒視点で考えて効果的な導線だと感じた。
- ・「保健だより」では、季節ごとに注意すべき点等が分かりやすく丁寧に取り上げられている。
- ・週3日のスクールカウンセラー常駐（10:00-17:00）という手厚い体制が構築できている。
- ・カウンセラー不在の3日は保健衛生担当教諭がカウンセリングルームに待機する体制ができている。
- ・7月の日本大学付属校3年目教員研修で日本大学高校・中学校としてのいじめ対応時の方針や法則が説明されたが、管理職と担当教諭の中で確固たる方針と行動則が確立されていることが認識できた。
- ・新学期に健康診断を行い、勧告書の対応処理が十分に行われている。
- ・林間学校等の校外活動前にも健康診断が行われており、健康管理が十分に行われていると感じた。
- ・大規模校でありながら学校全体（特にトイレ）の清掃が行き届いている。清掃業者によって日々、気持ちよく学校生活が過ごせることを生徒に当たり前と思わせず、感謝の気持ちを持ってもらいたい。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・相談室が暗い点が気になった。カーテンや他の備品の交換が必要と思われる。
- ・保健室のベッド周辺のパーテーションが部屋を狭くしており、工夫が施せると感じた。
- ・いじめ対応について生徒の安全を考えた細やかな対応方針を管理職や担当教諭が持てているが、その方針や行動則を全教員（非常勤含む）に浸透させられるよう今後も努力を続けていただきたい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・トイレにウォシュレットが設置されている点は衛生的にも配慮があると感じた。
- ・保健室のベッドはカーテンで仕切られているが、男女が同じ空間で処置を受けるのは問題ないのかと感じた。処置によっては異性の生徒に聞かれない内容もあるのではないかと感じた。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・付属校としての進路観を広げる取り組みとキャリアを実現するための学習指導
- ・平成28年度から日本大学高校・中学校で始まる「グローバル人材教育」の取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・卒業生によるOB講演会で「大学での学び」や「社会人になってからの活躍」に関する情報を与え

ることで、生徒が中長期視点で進路を考えるサポートを行っている。

- ・日本の伝統芸能や歴史、文化を体験できる機会が発達段階に応じで計画的に設けられている。
- ・日本大学全学部の学部相談会を2日間にわたって開催し、生徒の志望を具体的な学部・学科単位に落とし込む支援が出来ている（日本大学を知り、自分自身も理解できる機会になっている）。
- ・ロボット講習（物理部）を通して日本大学理工学部への関心度合いも高まり、大学の教員や学生に専門分野の指導を受けられることは生徒にとっては大変大きな刺激になる。
- ・「基礎学力育成＝Nゼミでのゼミ形式学習」、「個別対応＝スタディールームでの個人の学力差や学習課題サポート」、「使える英語力育成＝イングリッシュ・ラウンジでのネイティブの英語を経験する機会の設定」等、主要テーマに対策が打たれており、質、コストともに適切な展開になっている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・生徒の「基礎学力の定着」はまだ徹底の余地があり、この状況下で個人の探究や討論の時間を確保する場合は年間指導計画やカリキュラムの見直しが必要だと考える。
- ・日本大学高校・中学校は日本大学の付属校として「高大接続」と「探究的学習」の先例となる可能性を持った学校であり、「大学付属校でのキャリア教育」での先行事例が生み出されることを期待したい。
- ・「何をやりたいか」という自身の希望に加え、「社会のために何を成すべきか」という自身の責任、責務も視野に入れたキャリア構築に向かわせていただきたい。
- ・進路に関心の低い生徒には学級担任が積極的に声を掛けて相談に乗ってもらいたい。
- ・平成28年度から海外研修の機会を増やすとのことだが、語学学習に加え、日本の良さを知ることにもつながる異文化体験の機会としても有効なものにしてもらいたい。
- ・海外研修に関しては経済的理由で断念する家庭があることも考慮して取り組んでももらいたい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・福祉活動体験で生徒が新しい世界を発見することも期待でき、キャリア教育の一つだと思うので、生徒への啓蒙活動から始めてみてはどうか。
- ・日本大学の福祉活動に取り組んでいるサークルや同好会に生徒が参加することも一つの方策だと考える。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・学校の教育活動を地域に理解してもらうための活動（教育実践を進めやすくするための努力）
- ・生徒の成長を促すための保護者との連携の在り方（教育実践効果最大化に向けた保護者との連携）

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・学校は教育活動を実践しやすくするためにも、地域に学校の教育活動を理解してもらう努力をすることの重要性が高まっているが、その中で応援祭をはじめとした、学校行事に近隣の方を招く（チケット配布）等、学校教育を理解してもらえようような接点を持つ努力を行っている。

- ・定期的な近隣宅訪問も実践し、丁寧な対応を心掛けている。
- ・近隣で行事がある際は、ブラスバンド部等のクラブが参加して地域活性化の役割を担っている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・保護者との接点は積極的に確保されているとは言えず、保護者からは「子どもの学校生活の様子が知りたい」という意見があり、接点の持ち方には改善の余地がある。
- ・個人面談が年1回というのは少なく、2学期の後半時期にもう1回設定されても良いのではないかと考える。
- ・中学生の保護者は学校の様子や勉強について知りたいと思っており、保護者会での説明を望む。
- ・月に1回程度、「学年便り」が発行されても良いように感じる（HP上での掲載でも良い）。
- ・保護者との接点確保には「保護者講演会」は効果的で、次の内容の発信が理想的と考える。
 1. 学校、学年の指導方針を示す
 2. 学校、学年の問題意識を共有する
 3. 保護者が不安に思っていることに関する情報を提供する
 4. 家庭で支援してもらいたいことを発信する
- ・上記4点を発信することで、保護者の学校教育への理解や共感が生まれ、学校での教育実践に対する「家庭で取り組める支援」が得られ、学校での教育実践の効果を高めることが期待できる。
- ・保護者との接点増加は「教員の業務増加」にもなるので、狙いと効果を見定めた検討が必要になる。

その他気づいた点、疑問点など

- ・今後も地域の教育や活動を活性化させる中核としての活動と貢献を期待したい。

全体評価

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・全体として、項目化されている視点での教育活動や体制整備はしっかりとした形で実践されており、学校生活での安全、安心、学校教育の安定的な質の担保が実現されている。・特に教育環境の変化や重要テーマに対する必要な対策が先を見通して準備され、また効果を発揮してきており、教育の質の向上が実現されやすい環境整備が進んでいると感じる。
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・スクールバスの運行計画の細やかさ・高校教頭と中学教頭の連携がしやすい執務室の整備・カウンセラーや保健衛生担当教諭の待機体制・OB 講演などを軸とした、中長期的な視点で進路学習ができる機会の設定・日本の伝統や文化、歴史などを踏まえた、発達段階に応じた計画的な体験プログラムの整備・基礎学力向上、学習の個別対応、使える英語力育成などの、重要な教育テーマに対するプログラムと仕組みの構築状況・地域、保護者に対する学校教育の理解が深まるような諸々の活動（近隣宅訪問や学校行事のチケット配布など）
改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・避難経路の表示の分かりやすさや掲示場所・保健室や相談室の環境（レイアウトや部屋の明るさなど）・探究や討論などの時間の確保（カリキュラム改革）・保護者に学校の教育情報や生徒の情報を提供する機会の増加
その他感想
<ul style="list-style-type: none">・放課後の時間帯で、廊下ですれ違う生徒の表情の明るさや、学校行事に取り組む生徒の積極性や元気な様子を見ていて、意識の高い仲間と充実した学校生活を送っていることが容易に想像できる。・多くの生徒がとても素直で、日本大学高等学校・中学校という学び舎の下で順調に成長していることも想像ができる。・人間的な面でも、学力面でも生徒を更に成長させていこうという意欲が教諭からも感じられ、好循環の下で学校教育実践が進められていると感じた。・今後も社会へ有益な人材輩出を実現できる学校として、開かれた学校運営を進めていただくと同時に、「使える英語力育成」、「グローバル化に対応した教育の実践」、「教育の ICT 化への対応」、「思考力・表現力・判断力の育成」、「探求的な学びの実践」などの重要な日本の教育界のテーマに対する挑戦と好事例の発信を期待しています。

平成27年度 日本大学櫻丘高等学校
外部評価結果（総括）

日本大学櫻丘高等学校より依頼を受けた外部評価者4名の代表として、以下のとおり平成27年度日本大学櫻丘高等学校外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・非常災害時における自衛活動の対応や登下校時の緊急避難
- ・出入り口対応
- ・登下校のマナー
- ・新校舎工事中の安全性

取り組みについて優れていると認めた点

- ・本館は免震構造システムを持つと同時にバリアフリー化されており、生徒に安心感を与えている。
- ・大規模地震を想定した避難訓練を毎年実施し、事前指導・事後指導が図られている。
- ・施設の安全点検要項、震災時の自衛活動要領等、必要な要項類が準備されている。
- ・私立中学高等学校協会通達の緊急避難校ネットワークも実施している。
- ・生徒・保護者に対する緊急情報発信に複数の経路が用意されている。
- ・帰宅方面別生徒リストの作成、災害時における安全下校指導の実施、防災備蓄品の定期的入れ替え、全校生徒の防災キット用意、消防計画の策定等リスク管理がしっかりしている。
- ・校門警備の24時間2名体制、防犯カメラ設置、スムーズな事務局との連絡体制も評価できる。
- ・成城警察署の講師による交通安全、自転車利用者に対する交通安全ルールビデオ指導等、保護者に対しても注意喚起を促しながらの指導は評価出来る。
- ・その他：SNS関連講習会の開催、安全衛生委員会の月例会の実施

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・避難訓練において、火災時など校庭に素早く避難するケースと、その場で身の安全を確保するケースとに分類して対処する事を検討すること。
- ・工事中とはいえ、狭い空間で部活動を行わざるを得ない状況なので、くれぐれも注意を怠らず、具体的な安全行動方針を各部員間で話し合わせ協定を結ぶなど、生徒を主体的に関わらせつつ、具体的な安全対策の指導をお願いしたい。
- ・その他：2016年4月より、障害者差別解消法が施行され、私立学校には努力義務が課せられるが、新校舎完成に伴い、この視点から再点検する必要があるだろう。

その他気づいた点、疑問点など

- ・櫻高祭では、部屋の装飾として蛍光灯をセロハンテープで覆うなどの行為が一切なく徹底した安全指導がなされている様子がわかった。（優れていると認めた点）
- ・大学と隣接しているが、高校通学路が分岐しているのが地理的な好条件だと感じる。本校付近では近隣の住民より通学時のクレームを寄せられることがあるが、櫻丘での状況はどうか。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・カウンセラー体制
- ・保健室の利用手続きや利用頻度、傷病の程度による対応。生徒相談における教員との連携
- ・土曜日の保健室の先生不在の件
- ・発達障がい生徒に関する校内研修会の実施や支援の充実
- ・櫻高祭でのゴミ処理

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・生徒相談室はA棟に設置され、大学本部から派遣されたカウンセラー2名が週2回（各1名）対応している。スクールカウンセラーは守秘義務を守り、状況に応じて保健室、担任とも連携して悩みに対応している。
- ・健康診断・身体測定が学校保健法に則り実施され、在学中の健康管理がなされていると同時に、新入生に対しても、適切な説明がなされている。
- ・全教職員に対し、日本大学インテーカー研修会への参加を積極的に取り組んでいる。
- ・保健室の先生の土曜日不在は年間13日とのこと。不在の時は保健衛生部の先生が対応され、併設学部の医療室との連携を図っているとのこと。
- ・保健室、生徒相談室が整備され充実している。
- ・安全衛生委員会が定期協議を行っていることは大いに評価できる。情報の収集、協議、発信をこの委員会が中心となって続けていただきたい。
- ・AEDは4台設置。生徒は2年次にAEDの使用方を授業で指導している。生徒も設置場所は認識している。
- ・生徒が罹患した感染症の対応を全教職員が理解し、その結果が予防対策にも生かされた。
- ・櫻高祭でのゴミ集積場では、担当教員・生徒の委員が、協力しててきぱきと処理をしていた点。この点でも連帯と協調の精神が垣間見られた。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・カウンセラーに関しては、概ね生徒700名に一人の割合を当面の目標値にしたらどうか。また、カウンセラー自身のストレスが問題になっており、月に1日程度スーパーバイザーを交えた意見交換会があるとよい。また、カウンセラーと現場管理職との定例会はどうなっているか、生徒との信頼関係を考慮しつつ、必要な情報が共有されるシステムの構築を確認して欲しい。
- ・保健室の先生は春、夏、冬季休暇に土曜出勤の調整をしてくれているようである。1年間で約1,800名の利用者に対応されているとのこと。処置の程度は様々だろうが思春期の高校生の対応は大変である。やはりここでも概ね700名に一人の配置を目標値にしたらどうか。
- ・インテーカー研修会のみならず、コーチングの研修会への参加等、教員が傾聴と生徒の意欲を引き出す力を一層身に付けるよう研修体制の見直しを検討して欲しい。
- ・とりわけ大きなイベントでのゴミ処理には、面倒でも手袋の使用を義務づけた方がよい。
- ・ゴミの分別は（アクティブラーニングの）いい教材になる。実行委員会等がよく話し合った上で、事前に各参加団体に分別処理についてその趣旨を話し、分別の徹底を図る方策を生徒に提案させるなど、自分たちの問題であるという意識を一層植え付けたい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・校内清掃の件では、トイレ清掃は業者に依頼してきれいである。ただ、学校公開、櫻高祭ともに本館の階段やロッカーの上部の清掃が気になる。また、A棟はいつ清掃したかわからない状態である。生徒の当番制のようだが、月に1度は業者に入ってもらえるなどの配慮も必要だと思った。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・日本大学との関係性。
- ・付属高等学校としての取り組みと他大学希望者の進路指導。
- ・各委員会と生徒会活動について。
- ・「自主創造」の教育理念に基づき、個々の生徒に対し自己実現への陶冶を施している点。
- ・授業評価とシラバスについて。
- ・自己の人生を考え始めるのが中高時代。この時期、各自が日本大学への進学を選ぶか、あるいはそれ以外の道を選ぶか、どう考えているかに関心があった。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・日本大学の目的と使命を達成するために、学校全体・各学年・各部署で目標を設定し実践している。
- ・日大文理学部の図書館・百周年記念館・グラウンド・教室・学食等々施設利用が容易である、学部の授業を聴講できる、人的交流を通して大学の様子を垣間見ることができる等メリットを生かした高大連携教育ができており、それがキャリア教育にも繋がっている。
- ・そのような背景もあり、平成26年度（第54回）卒業生の日本大学進学状況は74%と高い数字であった。
- ・進路指導としては、日大進学者を中心に行われているが、他大学へ進路についてもクラス担任のみならず、どの先生も相談等にも応じてくれ、指導が行き届いている。
- ・基礎学力の定着をベースに、進路に則した3年間の教育課程が充実している。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・26年度自己評価でキャリア教育の指導に関する項目の達成度が低かったが、キャリア教育の認識の違いが先生方の中に多少あるのではないか。「社会で生きていける力」を育てていくことだとすれば、体育祭や櫻高祭、部活の練習など生徒が自主的に企画立案に取り組み、最後までやり遂げ目標を達成する力もキャリア教育の一環として位置づけることができるはず。キャリア教育の一層の研究を希望すると共に、担任業務や授業中の声かけのみならず、日常の中での先生の一言が将来に繋がることも大いにあることを再認識して欲しい。
- ・講習会や語学研修が部活と両立することが難しいように感じる。いろいろな体験が将来の選択肢に結びつくので、希望者にはできる限り望みをかなえられるよう調整できないか。

その他気づいた点、疑問点など

- ・昨今、大学では、アドミッションポリシー（AP）・カリキュラムポリシー（CP）・ディプロマポリシー（DP）の3分野について明確な方針と実施が求められている。日大には櫻高卒業生の約3／4が進学しているという現実があるが、日大への進学希望者に、日大あるいは日大各学部学科の上記3Pについての説明がどのようになされているか。あるいは日大から説明の機会があるのか。これなしには櫻高で行うキャリア教育は考えづらい。
- ・櫻高への入学案内には、櫻高の上記のAPが明記されていない。今後は中高の入試要項にも、APの明記が必要だという意見が増えるであろう。
- ・27年度のシラバスを見ると、年間実質授業週数は25週と思われるが、科目によって、週数の違いが見られる。曜日の調整を適宜行っているか。
- ・授業評価の結果については、どの様な対応がなされているのか。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保護者会
- ・保護者会と櫻高祭
- ・後援会（PTA）と学校との協力体制

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・保護者は学校に気軽に来校しているようだ。保護者との教職員とのコミュニケーションは、教育効果を上げるという意味からも大変重要で、そのスタンスが感じられる。
- ・櫻高祭では保護者・卒業生、地域住民、櫻高受験生など多くの外来者に溢れ、先生方が丁寧に対応し、交流が図られている。
- ・櫻高祭は、地域の方も楽しんで参加してくださっている。また、吹奏楽部やバトン部の下高井戸商店街のパレードは歴史も古く、商店街の方々の楽しみとなっている。
- ・文化祭などの行事の開催にあたって、ポスターを作成する等広報活動に力を入れている。
- ・学校に後援会があり、保護者と学校の協力体制が伺われる。また、櫻丘広報として学校行事などが保護者に配布されているのは良いと思われる。
- ・保護者は担任に限らず学年の先生に相談することができる。
- ・クラス連絡網に担任の連絡先が記載されているので、緊急な連絡や相談に迅速に対応してもらえる。
- ・地域清掃やボランティア活動を通して地域に貢献している。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・7月、文理学部主催の「百周年記念館」で行われた近隣の小・中学生を対象にした『科学実験・文化フェア』では、高校のパンフレットが置かれたままだった。せっかくのチャンスなので、無人ではなくアピールできる取り組みを考えてほしい。
- ・ボランティア活動の幅を広げて、ペットボトルキャップや古切手の回収を地域に広げて交流することもできるだろう。手始めに、櫻高祭のポスター掲示をお願いしている商店に回収ボックス設置するなど地

域の方もボランティア活動に参加できる企画などのアクションを起こせないだろうか。

その他気づいた点、疑問点など

- ・学級通信などは発行されているのか、確認が出来なかった。
- ・保護者会は、担任から進路等の説明があるのみで、他の保護者と話をする機会がないのにペットボトルのお茶を保護者に用意する必要はないと思うがどうか。
- ・保護者は役員を引き受けるか、保護者の交流が盛んな部活に入っていないと、学校のことを知らないままで終わってしまう可能性がある。謝恩会をしたいとの声も聞こえてくるが、まず、保護者会の在り方が変わらない限り実現しないのではないだろうか。

全体評価

評価概況

- ・実質的には、9月以降数回にわたって来校し、配布資料の読み込み、生徒活動の様子、授業見学などを通して評価を行った。
- ・外部評価委員は4名で、この評価を集約し記したものがこの総括である。
- ・今回の外部評価では、以下の4項目で評価している。
 1. 生徒の安全、危機管理について
 2. 保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について
 3. キャリア教育と日本大学への進学指導について
 4. 保護者、地域とのコミュニケーションについて
- ・評価結果は次年度以降の教育活動に反映されている。

評価できる点

- ・今年度の4評価項目に関して4名の外部評価委員の意見としては、一部に改善の余地があるものの、指摘事項を改善しつつ概ね誠実に実行されていると評価できるというものである。
- ・具体的な教育目標として、1. 基礎学力の向上、2. 自主性の確立、3. 連帯と協調性の育成、4. 基礎的生活習慣の形成を上げ、日常の行動目標を明確化した上で教育活動を実践している点も評価できる。
- ・さらにこの教育目標の上に、日本大学の付属校であるという立ち位置を認識した上で、キャリア教育の有り様を研究し、生徒に適切な進路指導を行っている点も評価できる。
- ・教育は、生徒・先生・保護者が三位一体となって行うものであるが、さらに生徒が円滑な学校生活を過ごすために必要な地域性も加味した取り組みも評価できる。
- ・各項目の評価できる点は、別紙を参照されたい。

改善すべき点

- ・公立学校までもが各校の独自性を出す昨今、櫻高という私学の独自性はどこにあるのかという視点の重要性が益々高まっている。
- ・他校との競合が厳しくなる中、櫻高にとって何が「誇るべき」点なのか、さらに現在「伸ばすべき」点は何なのか、を教職員が明確に認識・共有する必要があるだろう。
- ・それには、日本大学の建学の精神と付属校の教育理念を「不易」とし、その上にある現実の教育活動までの筋の通った「流行」を構築する不断の努力が要求されるだろう。日常に忙殺される中では、難しい課題であることはわかるが、少なくとも時折は教員間で「櫻高とは何なのか。我々は生徒にどんな人生を望んでいるのか。育てようとする人間像は。そのためには何が今必要なのか。」をテーマとした議論が必要なのではないだろうか。それは時として具体的な4つの教育目標の変更に繋がるかもしれないが、教員の教育や櫻高に対する意識は高まると思われる。
- ・各項目の改善すべき点は、別紙を参照されたい。

その他感想

今回、外部評価委員という機会を与えていただき大変感謝しています。他校の様子を伺うことで、新たな気持ちで教育の重要性や自校の改善すべき点等が浮かび上がって参りました。詳細がわからないまま評価している点がありましたら、ご容赦いただきたく存じます。
この評価が、櫻高にとって少しでもお役に立てれば幸いです。

平成27年度 日本大学鶴ヶ丘高等学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、鶴ヶ丘高等学校より依頼を受けた外部評価者5名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 1) 通学路の交通安全について
 - ・近隣住民等との通行トラブル防止
- 2) 防犯について
 - ・数か所にわたるカメラの設置や生徒たちの挨拶による部外者侵入の抑止効果
- 3) 防災について
 - ・避難訓練の実施
 - ・災害時の対応や通常時の家庭との連絡方法
- 4) 防災備蓄について
- 5) 救命救急講習会の実施
 - ・救命救急や薬物などの講習会開催
- 6) 緊急連絡メールについて
- 7) 薬物やインターネットの危険性に関する講演会の実施
 - ・生活指導講演会の継続開催
 - ・ネットワーク社会に潜む危険性の周知

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- 1) 通学路の交通安全について
 - ・集中する登下校時は2か所の歩道橋を利用するなど、近隣への配慮がなされている。
- 2) 防犯について
 - ・正門に警備員を常駐させることにより、入校者の確認ができるとともに不審者の侵入を未然に防ぐことが生徒の安全に結びついている。
- 3) 防災について
 - ・避難訓練については生徒主体で実施しており、事前に火元を明かさないなど実際の災害発生時に近い状況を設定し実践している点が高く評価できる。
 - ・独自の「大規模地震対応マニュアル」を作成し全生徒に配布・携行させている点。B5判の紙1枚に収めているため、定期入れや財布に入れられるようにしているアイデアが優れている。
- 4) 防災備蓄について
 - ・災害時に備え、全生徒3日分の食料・飲料水をはじめとした備蓄品の充実度は素晴らしいと感じた。食べること・暖を取るだけでなく、非常時だからこそ必要とされる浄水器やノーパンク自転車などの備品、学校を避難場所として機能させるための役職別ビブスなどハード面及びソフト面が充実している点。

- ・非常時はトイレになるマンホールが10か所も設置されていることに驚いた。1,000人を超える生徒に対し少ないという説明はもっともだが、この設備を備えていること自体に大きな意味があると思う。

6) 緊急連絡メールについて

- ・個人情報保護しつつ緊急連絡が一斉配信されることは、迅速性と正確性が確保されており高く評価できる。
- ・電子メールでの送信を第一の手段としているため、金銭的に大きな負担をかけることなく導入できている点。

7) 薬物やインターネットの危険性に関する講演会の実施

- ・生活指導講演会においては、所轄警察署より専門官を招いてより具体的で真実味のある講習を実施していること。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

1) 通学路の交通安全について

- ・教職員や生徒（風紀委員）による交通整理を行っているものの、「横断歩道を渡らない」「車道にはみ出しての歩行」などが見受けられることから、さらなる交通ルールの周知徹底が望まれる。
- ・下校時にどうしても広がって歩いてしまう生徒がいるとのことなので、さらなる声掛けと生徒の意識向上が必要と考える。

3) 防災について

- ・日常生活を含め生徒の安全を考えると、校舎の構造に少し難がある。一つ一つの建屋は制震構造など安全性に優れているが、建屋間を移動する際ちょっとした階段の上り下りがあるため、非常時に生徒が押し寄せると事故が発生しかねないと感じる。

6) 緊急連絡メールについて

- ・実際にインタビューした生徒は、保護者のみの登録が多かった。校外で大規模地震が起こったとき等、緊急で生徒に直接連絡することができるようにするとより危機管理を進められるように感じた。

8) いじめ防止について

- ・社会問題となっている「いじめ」には、先生と生徒そしてカウンセラーとの連携を引き続き強化していただきたいと思う。

その他気づいた点、疑問点など

1) 通学路の交通安全について

- ・信号待ちの際は、生徒たち自身が協力的で2列に並んで待っているという話があり、引き続き生徒たちの意識を高めて頂きたい。

2) 防犯について

- ・生徒が進んで挨拶をすることに感心した。部外者侵入の抑止効果になるということも納得できた。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

1) 生徒の健康維持増進

- ・身体面だけでなく、精神面の健康補助をどのようにしているかという点
- ・インフルエンザや風邪の流行時にポスターなどで予防・防止の啓発活動をしていること。

2) 相談室との連携

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

1) 生徒の健康維持増進

- ・「事故発生時の救急システム」は丁寧に作成されており、とても評価できる。
- ・学校要覧に保健衛生の任務・年間計画を明記し、公にしている点。
- ・生徒の発育状況を全国と比べ数値化している点。
- ・保健衛生は成果が「挨拶」のように生徒の活動として見えてくるものではない。定期健康診断、インフルエンザや熱中症の予防等を通して、生徒の健康維持増進に取り組んでいることがよくわかった。

2) 相談室との連携

- ・日本大学本部による派遣カウンセラーの設置は、様々な心のケアがなされることから、生徒が安心して学校生活を送ることができるものと感じる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

1) 生徒の健康維持増進

- ・近年は新型インフルエンザを始め様々な伝染性疾患が年ごとに散見される為、正しい情報を取り入れ、今後も的確な対処を続けていくことが望まれる。
- ・AEDが普及している昨今、特に初期対応が重要になってくる。
- ・難しいとは思いますが、健康増進に関する積極的な発信、例えば、身体計測・体力・疾病の状況から、5年後や10年後にどのような状況になるのかを生徒個々に考えさせ、健康増進に取り組ませる等の保健指導を行うと面白いと思う。
- ・夏場の暑い教室の温度管理など空調設備の充実をさせ、健康管理と共に授業への集中ができるようをお願いをしたい。

その他気づいた点、疑問点など

特になし

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 1) キャリア教育
 - ・将来を見据えたキャリア教育と進路選択
 - ・キャリアガイダンスの実施
 - ・キャリアノートの活用
 - ・教科ごとの発表型授業・グループ学習・アクティブラーニングの実践
- 2) 日本大学への進学指導
 - ・日本大学の推薦制度の活用について注目し評価した。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- 1) キャリア教育
 - ・「出口教育としての進路指導ではなく、将来を見据えたキャリア教育として、高校3年間を見通した進路指導計画を立てている」という学校方針は大変高く評価できる。
 - ・今までキャリアガイダンスは大学の教員が受け持っていたが、本年より実際の職業人が講師を務めるようになった。これはリアルかつ最新の情報などを講義でき、生徒にはとても有用なことと思われる。今、何をしたらよいか、何を学ぶべきか、どこに進学すれば当該職種に就きやすいかなどを考えてもらえるはずである。
 - ・1年次から学年ごとに内容を絞った「キャリアノート」を一人一人に持たせているのは、生徒の意識を高めることに役立っていると感じる。
 - ・「キャリアノート」を年間通し活用してゆくことで、将来の職業への関心、それに沿った進路選択、入試情報の取得が可能となっている。さらに模擬試験の推移などもこのノートを通して確認してゆくこともでき素晴らしい取り組みだと感じる。
 - ・面談した生徒にインタビューしたところ、「キャリアノート」に関する取り組みが確実に推進されていることがわかり素晴らしいと感じた。
- 2) 日本大学への進学指導
 - ・学年を追うごとの段階的な進路指導は、日本大学への理解を深める上でとても貴重である。
 - ・面談した生徒は日本大学への進学を明確にイメージしている生徒が多く、付属校として高大の連携が進んでいると感じた。
 - ・日本大学への進学という意識を持たせるため、1年次からの段階を経た指導は大変優れていると思う。実際に生徒が学部で足を運んだり、教授たちの講義を受講したりする事により、早い段階で将来の希望に向けた進路（学部の選択）ができるのではないかと思う。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- 1) キャリア教育
 - ・生徒の要望に応えるため、幅広い職種・人材の確保が望まれる。
 - ・活用する生徒にとってはとてもいい資料となる「キャリアノート」であるが、生徒の話では模擬試験の結果を記入してそのままロッカーにしまいっぱなしにしている者もいるということなので、生徒が自主的に活用できるアイデアを加える必要を感じた。

- ・参観した英語の授業ではアクティブラーニングの素晴らしさを実感したが、幾つかの授業では教師の話術と板書中心の授業展開が見受けられた。

その他気づいた点、疑問点など

1) キャリア教育

- ・図書館がとても充実しており、生徒にとって職業調べや進路情報の取得などがしやすい環境にあるにも関わらず活用されていないのは、その改善が望まれる。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

1) 桜園会について

- ・保護者組織の活動

2) 地域とのコミュニケーションについて

- ・学校にとって近隣住民との共存は避けて通れないものである。どのような取り組みをして通学時のトラブルをなくしているのか。

3) 杉並和泉学園との連携

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

1) 桜園会について

- ・学校への協力体制は大変意識が強い。
- ・桜園会は、保護者と教職員の親睦を図り意見交換会を充実させている。

2) 地域とのコミュニケーションについて

- ・地域組織への積極的な協力や参加は高く評価できる。
- ・特に鶴ヶ丘祭では、地域住民の来場も多く見られ楽しまれている様子である。
- ・登下校時の意識づけについて素晴らしいと感じた。立地上、狭い住宅路を通らざるを得ない・何か所かの信号を渡らないといけないなど、近隣住民とトラブルを起こしかねない状況にあるが、先生方からの声掛けの結果、横断歩道を1列で歩くことや信号待ちの時に整列をするなど、生徒自らが意識をして登下校している様子に感心した。
- ・私立学校であるのにもかかわらず、地域連絡協議会・震災救援所運営連絡協議会等に参加し、地域教育の充実・防災や避難所運営等の実施等に積極的に関わっているところが素晴らしい。
- ・町会役員会の場所の提供などは日頃の交流や信頼関係が成立していないとできない事だと思う。
- ・近隣対策としての環境の整備も大変充実していると感じる。

3) 杉並和泉学園との連携

- ・放課後の学習補助などに生徒が力を貸している点は、ボランティア活動の一環として素晴らしいと感じる。
- ・公立の杉並和泉学園に協力し、ボランティア生徒による小学部児童への学習支援・総合グラウンドの提供等を行っている。特に学習支援では、小学部児童とかかわることで、日本大学鶴ヶ丘高

等学校校則にある「自主創造」の自らの人格を磨くこと、他から与えられるのではなく、自ら進んで人間としての存在を確かめ、高めていく「自主の精神」の涵養に役立っているものとする。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

2) 地域とのコミュニケーションについて

- ・鶴ヶ丘祭について地域の方との交流が続けばより相互理解が深まることと思うが、イベントを公開することはデメリット（現代社会の暗部）とも背中合わせであることから、警備などが一層重要になると覚悟しなければならない。
- ・下校時にどうしても広がって歩いてしまう生徒がいるとのことなので、さらなる声掛けと生徒の意識向上が必要と考える。
- ・より一層地域との連携を進めていただけるとありがたい。

その他気づいた点、疑問点など

1) 桜園会について

- ・体育祭を参観したいという保護者の声をよく耳にする。現状では物理的にも保安市的にも難しい旨を今一度説明されることが望ましい。

2) 地域とのコミュニケーションについて

- ・施設を地元提供し学校から地元へ門戸を広げている点が、地元住民からいろいろな面で評価される手助けをしていると感じる。

全体評価

評価概況

- 外部評価委員として当該校の全体像を知ることができることから、校訓や学校方針に則った運営がなされているかを基準に置いて評価にあたった。
- 学校全体として校長及び評価委員会を中心に本評価に取り組む姿勢が確認された。
- 危機管理・保健衛生・学習等全般にわたり良い環境を作り出しており、平均以上の成果を上げていることは高く評価できる。
- 「生徒への安全が最優先」に考慮され、教職員の努力と創意工夫による学校基盤の上で明るくのびのびと生活している生徒の姿は、まさに校訓と学校方針に拠るものと深い感銘を受けた。
- 充実した施設に驚きを隠せないと同時に安心感を覚え、恵まれた環境で学校生活を送ることができる生徒が成長し、それぞれの道へ巣立っていくことに希望を抱くものである。
- 各イベントなどにおいても生徒の自主性が発揮されており、今後もバランスを崩すことなく、たゆまぬ創意工夫を積み重ね、さらなる自主創造を大いに期待するものである。

評価できる点

- 生徒たちが安全に通学し、危険なところでは教職員が誘導し、「校長先生まで誘導して下さることには安心感を覚える」と生徒が話していた。
- 「防災施設見学」では、非常時に十分な量の備蓄や器具が備えられており、定期的な防災訓練や充実した講習会、さらにはしっかりした運用マニュアルなど管理体制も整備されていると感じた。
- 進路指導においては、単なる大学進学のための指導ではなく、将来を見据えたキャリア教育がなされており、目標に向かっていけるという点で素晴らしいと感じる。
- 学力は教科の机上の学習だけではなく、部活動・地域での活動・ボランティアなどの幅広い体験・人間関係等から身につくものであるという考え方で生徒を育てている。
- 地元の方々との交流や杉並和泉学園との連携など、地域とのコミュニケーションを大切にしている点も高く評価できる。
- 「しつけ教育の一環として、挨拶・礼儀・身だしなみ等の大切さを教え、心身ともにバランスの取れた人間を育てる教育」に注力されている取り組みは日々実践されているものと感じる。特に来訪者に対するハキハキした挨拶の徹底など、生徒がこれだけよく挨拶をする高校はあまりないと思う。このことが校内を一層明るい雰囲気になっている大きなファクターとなっている。
- 学習のレベルを上げつつ、部活動も都大会・関東大会・全国大会に出場できるレベルにまで引き上げていることは、まさしく文武両道と言えよう。
- 教職員と生徒が互いを尊重しあい、対話を大切にしてコミュニケーションを図っていると感じる。
- 夏休み期間中、校長室の入口に「〇〇の時間は在室しているので、勉強の質問がある生徒は聞きに来てください」との貼紙があり、風通しの良さを感じた。
- 6万冊蔵書の図書館は他校にないユニークなものが取り入れられており、まさに圧巻の一言に尽きる。同時にICタグ管理による図書管理には独自性を感じた。併せて、図書館を外部に開放している点も評価できる。
- 夜間照明を備えた人工芝の総合グラウンドやテニスコート・バレーコートが3面取れる体育館・温

水プール・部活動の合宿ができる寮等の施設が大変充実している。

- 教室の窓からも中庭の緑が見え、環境面でもよく整備されている。
- 「生徒との面談」では、自らの進路に対して明確な目標や夢を持っていたところが素晴らしい。さらに学校の良さをはっきりと一人一人の言葉で語っていて、充実した学校生活を送っている様子を窺い知ることができた。
- 「授業参観」においては、熱心な教職員と真剣に授業を受けている生徒の姿を見ることができ、教職員が一方的に進めるものではなく、生徒たちに質問をしたり発言をさせたりと一体感を感じるとともに、学習の成果が期待できると感銘した。
- 「体育祭見学」では、学年を縦割りにしての4団体対抗戦は学年を超えての一体感が生まれ、元気な掛け声や明るい表情がとても微笑ましく感じた。
- 学食も栄養第一を考え、メニューも豊富に揃えられており、生徒たちが美味しそうに食べている姿が印象的であった。

改善すべき点

- 校舎の構造や階段が複雑であること。(改修が必要であり、多額な予算がかかるので難しいと思う。)
- 普通コースと特進コースの生徒間交流を推進すること。面談した普通コースの生徒は、ほとんど交流がなく特進コースの生徒を特別な人と思っていたと話していた。
- 普通コース教室の空調が集中管理されているため、クラスによる温度差があるにも関わらず室内での調節ができないことは改善が望まれる。
- 他校ほどではないものの、学校外で身だしなみの悪い生徒を見かけることから、皆無を目指して取り組んでほしい。

その他感想

- 生徒の清々しいあいさつ、先生方の真剣なまなざしと明るさが印象的であった。知・徳・体がバランスよく育成されている私学屈指の学校であると率直に感じた。
- 特進コースでは他大学受験がメインとなるが、頑張ってもっともっと国公立大学に挑んでほしい。学力の素地は付いていることから、あとは挑戦する気持ちなど意識の向上改革が必要なかもしれない。ぜひとも好成績を刻んでほしい。
- 選挙権年齢の引き下げに伴い、来年から早速投票が実施されることから神経を使うことと思うが、舵取りを間違わないようお願いしたい。

平成27年度 日本大学藤沢高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、藤沢高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者5名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全・危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

消防・防災計画及び救急システムの整備、ホームルームや夏季・冬季特別授業における災害・インターネット安全教室、登校時のメールによるお知らせシステムなどの取り組みが図られているとともに、学校生活における厳格な規程（校則）が十分整備されていると思います。

東日本大震災以降、私学を選ぶ際のひとつの要素として、地震、津波、その他の災害に対する安全性を考慮する保護者が非常に増えている中で、本校では、登下校時、授業中、休み時間など、その状況に応じての十分な対策がされていると思います。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

中学校の夏季・冬季特別授業にて東日本大震災について調査し、プレゼンテーション（藤沢防災フェスタにて）を実施しているなど、通常の授業では扱いにくい内容をテーマに取り上げるとともに、特に社会の時間でこのような災害について生徒各自が真剣に考え、調べ、発表を通して情報を共有し、今後活かしていく姿勢は極めて優れていると思います。

「消防・防災計画」においても、防災避難ブロックの担当者がきちんと配置され、緊急時の連絡体制・救急システムについても非常にわかりやすくマニュアル化されている点は評価できます。

校則や学校生活のしおり等に厳格な規程を定め、教職員の日常の指導により、学校内外の風紀を粛清し、これにより服装の乱れが少ないなど生徒自身に一定の生活水準が保たれる仕組みが構築されていると思います。

また、登下校の記録や災害発生時にメールを発信し、家庭に安全をお知らせしているのは、保護者の立場からもきわめて安心でき、優れた取り組みといえます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

平成26年度学校自己点検・評価シート集計結果では、保健・衛生部門で学校の安全管理体制の強化、防犯教育の充実など学校安全対策に取り組んでいるかの質問に対して教職員の51名回答中12名ができていない、あるいはあまりできていないと答えているため、今後の取り組み向上を望みます。

地震・津波対応については、校舎も新しく、湘南の海からも離れた高台に位置していることから、被害は最小限に抑えられるため、当面、特に改善が必要である点は思い当たりませんが、今後もシミュレーションの重複励行を行うなど、油断無く実効性のある防災対策に取り組んでいただきたいと思います。

その他気づいた点、疑問点など

本校の大きなアドバンテージとして、広大な敷地に恵まれ、避難場所に困ることのないこと、また、六会日大前駅から徒歩数分に位置し、一つの信号、一つの交差点も通らずに登校できる点があげられ、このような好立地にある私学はそれほど多くはありません。防災対策・交通安全という

観点からも、この点をもっと外へアピールしても良いのではないかと考えます。

制服、靴、鞆等を統一することにより、風紀の乱れを抑制しています。カバンについては、リュックとして使用できるなど防災向きであり良く考えられている。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

保健衛生については、保健室の他、生徒からの相談に応じるための、カウンセラー室が整備されるとともに、AEDの講習会を教職員と希望生徒に実施しているのは素晴らしい。

事故発生時の対応マニュアルについては、学校要覧にその詳細が記載されており、十分な対策が施されていると思います。さまざまな点において充実した対応が図られています。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

最近、登校拒否、いじめ、高校生による凶悪事件も頻発しており、この世代の生徒を預かる学校側としては、生徒指導には大変な気配りが必要であろうと思いますが、週2回日本大学本部学生相談センター派遣のカウンセラーによる対応を行うとともに、生徒相談担当教諭も昼休み・放課後に対応しているのは保護者にとってもきわめて心強い取り組みといえます。

カウンセラー室の利用についても、電話での相談や、匿名でもかまわないことなど、生徒の側に立った対策が施されており、強い感銘を受けました。

部活動も盛んで施設も充実しているため、今後もバランスの取れた生徒が増えると思います。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

保健衛生については、ソフト面もハード面も充実しているようですが、強いて言えば、防犯教育の充実があまりできていないとの指摘が若干あるため今後の対策の充実を期待します。

保健室の利用状況表を見ますと、高校生で6月と9月、中学生で9月と1月に利用割合が高く、何らかの理由があると思われるので、月ごとの症状の件数とその対策へのシミュレーションがあると、今まで以上の対応が可能になると思います。

また、生徒に対する相談対応を充実させるためにも、教職員がメンタル不調にならないよう教職員のメンタルケアに積極的な取り組みを期待します。

その他気づいた点、疑問点など

生徒相談担当教諭も昼休み・放課後に対応しているのは手厚いが、一方で、当該教員にとっては時間的な意味でかなり負担になると思います。

運動部が盛んな学校ですので、部活中の事故などが多いのではないかと危惧しておりましたが、救急システム（傷病者への対応）が完備されており、更にAEDを設置するなど、十分な対策が施されている。

また、インフルエンザやノロウイルスなど、拡散しないように予防に努めていただきたい。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

生徒に対する日本大学学部説明会、日本大学個別進学相談会の他、センター試験プレテスト、大学過去問貸与を実施するとともに、先輩・後輩間の情報交流などを通じて、日本大学や難関大学進学率の高さを保っています。

授業についても、中高一貫で綿密なプログラムが組まれており、その中では、特進クラスの設置や日本大学生物資源科学部と連携したフィールドワークの実施、課外授業や海外研修など特色のある取り組みがなされています。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

日本大学への進学については、日本大学学部説明会・日本大学個別進学相談会を実施することにより、学科ごとの違いがより明確になり、進学先のミスマッチを少なくし、日本大学に対する生徒の帰属意識も高めることができていると思います。

他大学への進学については、大学過去問貸与、センター試験プレテストの実施により、必要な学力レベル・雰囲気を経験でき、生徒の意識もより一層高まると考えられ、生徒・保護者のニーズに合っているのではないかと考えられます。

これに加え、ホームルームをはじめとした日常的な学習指導や先輩・後輩間の情報交流、保護者を交えた三者面談、夏期特別補習や勉強合宿などの取り組みの結果、日本大学のみならず、国公立大学や難関私大にも多数合格しており、生徒・教職員双方の努力の結果としてとらえることができます。

中学部設立当初から行われているフィールドワークは、大学も含めた本校の特色を遺憾なく発揮した優れた取り組みだと思えます。中学校にとっては、他私学との最大の差別化になっていると思います。また、野菜作りに従事する経験は、今後の生徒の皆さんにとって人間形成の上でも大きな効果があるものと考えます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

平成26年度学校自己点検・評価シート集計結果では、進路指導部門でキャリア教育等、生徒の体験的活動を積極的に取り入れているかの質問に対して、教職員58名中23名ができていない、あるいはあまりできていないと答えているため、今後何らかの改善策が必要と思われます。

また、大学付属校にとって、在校生に他大学への受験を目指させることは極めて困難なことであると思います。今後も、国・公立をはじめとした他大学への進学を目指す方向を維持するのであれば、日本大学以外へ進学することの意義、あるいは受験勉強をすることの必要性を生徒の皆さんに強く訴えていく必要があると考えます。

日本大学への新推薦入試制度については、初年度ということもあり選考基準が一部不確定であったと思います。今後は、入学時から一定の基準を示すことができるようお願いいたします。

その他気づいた点、疑問点など

生徒による授業評価アンケートの実施及びシラバスの作成は、授業進行上大きく役立つものと思われ、優れていると思います。授業評価アンケートは、以前より評価が大きく高まっていると感じ、この点も先生方のご努力がうかがわれます。

☆保護者・地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

後援会活動や保護者説明会、登下校お知らせシステムを通じて、積極的に保護者とのコミュニケーションをとる姿勢が感じられます。また、生徒もボランティア活動を通じてより多くの地域との交流（地域小学生との交流会や防災フェスタ参加）を図ろうとしています。

当該校の取り組みについて優れていると認められた点

生徒会の生徒が中心となって、自発的に今後地域とのコミュニケーションをさまざまな形で深めていこうとしている点が評価できます。

また、授業参観や保護者会で保護者に必要な情報が提供されるほか、登下校お知らせシステムを利用し保護者に安全を知らせていることや、保護者も日本大学本部学生相談センター派遣カウンセラーに相談できる点が評価できます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

多くの生徒を抱えている学校では、個々の生徒への目が行き届かず、学業の上では落ちこぼれを、生活面では登校拒否を生み出しかねませんが、この点においては十分なお配慮が為されているとは思いますが、今後ともすべての生徒の皆さんが楽しく通える学校であって欲しいと願います。

普段は生徒・教職員の安全確保の面では難しいと思いますが、非常時の災害訓練を学校だけでなく藤沢市と連携して企画・実行すれば地域住民とのコンタクトが良くなると思います。

保護者が生徒の学校生活をより知る機会をつくるため、体育祭についても土・休日に実施したら良いと思います。また、新しいグラウンドについて、地域住民とのコミュニケーションをとる場所として活用を期待します。

その他気づいた点、疑問点など

今後は、小・中・高一貫校の良さを発揮して、地域との交流をさらに増やしていただくことを期待したい。

全体評価

評価概況
<p>今回の評価項目である、生徒の安全・危機管理，保健衛生に関する生徒への指導・相談体制，キャリア教育と日本大学への進学指導，保護者・地域とのコミュニケーションについて，いずれも高いレベルの取り組みがされていると評価します。</p> <p>今後も，現行の取り組みについて，計画的に実行し，定期的に点検・評価し，必要に応じて改善することで，生徒・保護者・地域からも信頼される高いレベルの学校運営が継続されることを期待します。</p>
評価できる点
<p>「消防・防災計画」で緊急時の連絡体制・救急システムについても非常にわかりやすくマニュアル化されていること，登下校時のメールによるお知らせシステムの導入，厳格な校則，カウンセラー室の充実，日本大学や他の難関大学への進学対応，日本大学生物資源科学部と連携したフィールドワークの取り組み，生徒会を中心とした地域とのコミュニケーションなど，高いレベルの取り組みが実施されていると評価します。</p>
改善すべき点
<p>安全管理体制，防犯教育，教職員へのメンタル不調防止対応，進路指導，新しいグラウンドなど学校施設を利用した地域（学園都市むつあい）とのコミュニケーションづくりなどの取り組みが，さらに充実されることを期待します。</p>
その他感想
<p>選挙権の18歳以上への引き下げやSNSへの対応など，引き続き難しい対応が必要となりますが，十分な整理ができ，円滑な学校運営がされることを期待します。</p>

平成27年度 日本大学豊山高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、豊山高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者4名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ①いつも登下校の際、教職員が生徒を見守り、同時に通学路の片側を通るように、中央に立って指導されていることが良いと思う。
- ②「スクールガーディアン」導入により、ネットトラブルを未然に防ぐよう対策に取り組んでいる点は素晴らしい。日頃の注意喚起ではなかなか解決に繋がらないところを、一步踏み込んだ対策だと感心した。
- ③台風・地震等の緊急時における生徒への対応は、しっかりと確立できている。
- ④防災訓練を年2回実施していて、近隣との連携が取れている。
- ⑤SNSによるいじめについてもしっかり取り組んでいる。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ①登下校指導の際に服装の乱れなども見逃さずに指導されていることが素晴らしいと思う。
- ②「ジュニア防災検定」を中1～中3の全員に受験させている点は、他校に例を聞かない。大人になってからも生かされる防災意識の定着が図れることが、大変素晴らしく意義ある教育指導だと思う。
- ③災害時の非常食（3日分）・ヘルメット・簡易トイレ・医薬品等の備蓄品がしっかりと保管されていて、緊急の対応体制が整っている。
- ④正門の警備室や防犯カメラの設置などで生徒の安全に配慮している。
- ⑤「スクールガーディアン」の導入。
- ⑥いじめに対する取り組み。迅速な対応をいただいている印象がある。いじめをしない、させない、許さないという学校の姿勢が見て取れる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ①新校舎になり、地震が起きても安全かとは思いますが、エレベーターに閉じ込められた時の対応や電車通学者が多いと思われるので、さらに通学時の安全について、普段から生徒の冷静な対応を指導しておく方が良いのではないかと。
- ②校舎が高層化したことにより、災害の際の緊急避難方法、訓練については取り組まれていると思うが、定期的な避難訓練と生徒への周知をお願いしたい。

その他気づいた点、疑問点など

- ①「命の大切さを学ぶ教室」には可能であれば参加させていただきたい。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ①学校の周りや校舎内がいつもきれいで素晴らしいと思う。護国寺境内でゴミ拾い等清掃をしている生徒もいた。
- ②生徒の健康管理や学校の環境衛生はしっかりされていると思う。
- ③カウンセラー・生徒相談室・インフルエンザ等の対応体制がしっかりとできている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ①生徒が嫌がらず積極的に取り組んでいるのが良かった。
- ②生徒相談室に週2日カウンセラーを配置されている点は、保護者や生徒への安心に繋がっていると思う。また、入口が2つあることも相談に来る生徒への配慮がなされていると思う。
- ③保健室の先生の2人体制が確立できていて、放課後の部活動にも対応できるように勤務時間を2時間ずらしていることは素晴らしいと思う。
- ④相談室への出入り口が別があり、プライバシーの保護体制ができている。(同意見1件)
- ⑤「救命講習会」の実施。教職員だけでなく、生徒(各部活動部長等)にも受けさせていることは評価される。
- ⑥「保健だより」の発行と活用。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ①2,000名を超える男子生徒を預かっていて、保健室の人員が専任・派遣の2名体制では現場が大変ではないかと思う。
- ②担任教諭と保健室が生徒の健康管理を常に情報共有する場を定期的に行っている、学校として危機管理にも繋がるのではないかと思う。
- ③保健室のスペースがやや手狭ではないか感じたが、利用する生徒が少ないとのことなので問題ないと思われる。
- ④「救命講習会」は生徒に希望者がいれば、部活動部長等以外にも多くの生徒に受けさせてはどうかだろうか。

その他気づいた点、疑問点など

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ①進路指導・面接など、きめ細かく対応している。
- ②特進に対する指導体制もしっかり対応している。
- ③中学から学年ごとに段階を経て、「職業」についての調べ学習や近郊にある日本大学の各学部を見学させるなど、キャリア教育を実践している。
- ④進路指導のようすは分かりませんが、特進クラスの指導がどのように行われているか関心を抱いている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ①75%の生徒が日本大学へ進学しているとは、素晴らしい。
- ②文武両道が当たり前のように行われており、豊山高校生としてのプライドを持っていて愛校心が感じられる。
- ③他大学進学実績が一定数あるのも、生徒一人ひとりに適切な進路指導がされていることなのだと思う。
- ④外部模試への受験サポートなどもしっかりされている。
- ⑤日本大学各学部説明会と学部見学会
- ⑥「COMPASS」の定期的な発行とその活用が十分なされている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

特になし

その他気づいた点、疑問点など

- ①文化祭では、生徒会が主体的に運営し、のびのびと部活動の発表や催し物を行っている。
- ②生徒全員が来訪者に対してきちんと挨拶ができ、丁寧な対応をしている。
- ③率直な疑問として、日本大学の医学部・歯学部への進学者数が出ていない理由は何でしょうか（保護者に金銭的余裕がないと私立医学部へ入学出来ないと思いますが）？実績を出せる進路体制だと思う。
- ④大学進学がすべてではないので、キャリア教育について、どのような方を講師として招いているのか、参考としたいので知りたい。
- ⑤学業第一は当然だが、先生によっては学業優先を強く生徒に要求するあまり、部活動に対し良い印象を持っていないのか「部活動なんかやっている場合か」と生徒に話す先生がいらっしゃるようである。将来社会に出て、会社という団体の中で必要とされるコミュニケーション力や協調性、謙虚さ、諦めない気持ちなどは、高校生活での部活動や生徒会活動の経験が大いに役立つ。文武両道を掲げる豊山であるならば、学業と部活動等を頑張っ両立させるような指導を期待したい。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ①文化祭には保護者の方がたくさん訪れていた。教員と生徒と保護者の関係が密接であることがうかがえる。
- ②文化財防火デーや地域の活動にしっかり貢献していると感じた。私学は地域との連携・交流が、生徒募集にも大きく影響を与えるので、より充実した活動になるよう期待したい。
- ③地域のお祭りなどで、ブラスバンド部がパレードに参加しているのが、地域に開かれていると思った。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ①護国寺の境内の清掃や地下鉄駅の交通マナーなどにきちんと取り組み、地域から認められている感じがとても良い。
- ②近隣の小学校との交流も行われているのが素晴らしい。
- ③青柳小学校の周年記念式典や大塚警察署の安全パレードに吹奏楽部が積極的に協力・活動していることは高く評価できると思う。
- ④吹奏楽部が青柳小学校の校庭を練習会場として利用されているのですが、態度や礼儀、どれも素晴らしいと思う。
- ⑤私立中高のわりには、地域とのコミュニケーションは積極的に取れていると思う。
- ⑥学校後援組織「育友会」活動。とくに機関誌「ぶざん」は、生徒の活動、教職員の研修の報告、日本大学各学部の紹介、部活動の活躍などが載っており、編集に携わる方々には頭が下がる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

特になし

その他気づいた点、疑問点など

- ①以前、護国寺駅からは日頃クレームがあり、関係性を改善したいとお話を聞いたことがある。駅での生徒の様子をよく目にするが(放課後の時間帯)、迷惑をかけている場面には遭遇したことがないので、日々改善されているのだと思う。
- ②地下鉄ホームなどでのマナーや気遣いにも良いものがある。
- ③最近、学校周辺から理不尽なクレームもあると聞いている。改善すべきものは仕方ないが、生徒が我慢を強いられることが多くならないよう、生徒がより快適な学校生活を送れるよう、対応をお願いしたいと思う。
- ④最近、極端に子離れできていない保護者の学校に対する要望や苦情が増えてきていると聞く。そんな親に対しての思春期を迎える子どもたちの子育て講習会等の開催も検討してはどうだろうか。

全体評価

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・全体的によく取り組んでいる。
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・危機管理について、しっかり取り組んでいる様子が見える。・保健室「保健だより」は、健康管理・予防などの啓蒙として素晴らしい。・進路指導の成果として、日大進学率は高く評価できる。・護国寺及び地元町会との消防活動の連係や大塚警察署との交通安全に対する協力体制は、高く評価できる。
改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・一部の教員に、部活動参加生徒に対する「言葉の暴力」もあるようです。言葉遣いに気をつけるようにお願いしたい。
その他感想
<ul style="list-style-type: none">・あいさつがしっかりできる生徒が多い。

平成27年度 日本大学豊山女子高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、豊山女子高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者4名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・緊急時の「連絡メール」が整備されて、それを活用することにより緊急時の学校と家庭との連絡を密にして生徒の安全を確保している。
- ・災害及び危機管理に対しての対応マニュアルが事細かに作成してあり、生徒が毎日安全に過ごせるように考えられていてとても安心である。
- ・中高生になると家庭で過ごす時間よりも学校で過ごす時間の方が大半を占めるために、学校での生活において常に安全性が求められ、生徒の安全を第一に考えられた環境づくりのために作成されたマニュアルは日頃からの教職員の努力の賜物であり非常に素晴らしいと思う。
- ・以前は複雑な校舎の造りであったので、セキュリティーに関して万全の対策を講じている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・東日本大震災の時の教訓を生かして作成された「震災対応マニュアル」に基づき、震災発生時の対応の仕方が明確に示されていて、緊急時の避難方法及び安全確保のための行動の方法がきちんとマニュアル化されている。そのマニュアルを元に避難訓練を実施していて、緊急時の先生と生徒の行動を明確にしている。
- ・生徒に対して学校があらゆる面からサポートしていただき、生徒が安全かつ安心に過ごせるように管理が出来ていて良い。
- ・「危機管理マニュアル」「震災対応マニュアル」「いじめ防止基本方針」等は、各項目ごとに詳細にわたり記載されていて素晴らしい。これらにより、安心して子どもを託すことが出来る。
- ・校内に警備員を常駐することで来校者のチェックを厳重にしている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・緊急時の「連絡メール」の実施において、いざと言う時に確実に連絡が流れるように定期的に試験メールを発信して緊急時に備えた方が良い。また、クラス別の連絡網も「連絡メール」または「ライン」にて配信出来るようにしたら良い。
- ・現在のマニュアルを定期的に見直して、状況に応じて改善を行なって欲しい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・時々学校を訪問した際に、色々な業者さんも容易に校内に入っていましたので、来校者のチェックをもう少し厳しくした方が良い。エレベーターは監視カメラがあるから大丈夫だが、階段からはカメラの死角になっているから注意が必要である。
- ・いじめやネットに対して敏速に対応してくださる教員が素晴らしい。
- ・日の入りが早い冬の時期の通学路が非常に暗い。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・ S T I 予防講習会や普通救命講習会を毎年実施して、生徒一人一人の自覚、意識の向上を高めている。
- ・ 生徒が心も体も安心して過ごせる環境になっておりとても良い。
- ・ 何か起きたらすぐに相談出来る体制になっていて、学校全体でサポートしているようでとても安心出来る。
- ・ 学校医、スクールカウンセラー、養護教諭、教員との連携がしっかりと出来ており、家庭との連絡もスムーズに行われている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・ 保健便りを発行して、その時期に応じて注意しなくてはならない感染症などを取り上げて生徒に注意を喚起しながら健康管理を推進している。
- ・ S T I 予防講習会や普通救命講習会の実施により、危機管理の知識として社会に出て役立たせている。
- ・ 女子生徒に対する保健情報が全員に行き届くように学校としての努力が感じられる。
- ・ 新年度の健康診断はたくさんの項目の検診が行われるが、1日という限られた時間でスムーズに行われているのと、検診に携わるスタッフも女性だけで行われていて、思春期の羞恥心が高まっている女子生徒のことをとても考慮していて安心出来る。
- ・ 年間を通して季節的に流行が予想される疾患に対しての予防策がしっかりしていて、生徒自身が健康管理の必要性を理解しやすい環境になっている。
- ・ 生徒が体調不良または怪我などをした場合に、確実に連絡が取れるまで保護者と連絡を取ってくださるのでとても安心感がある。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・ 保健室がある棟は、現在は高校3年生が主体に使用していて中学生や高校1年生や2年生にとっては少し距離があって気軽に行けてないのではないかと。1号館に移動した方が大半の生徒や先生から近くなって、より活用し易くなるように思います。
- ・ 普通救命講習会を毎年受けることが出来れば、いざという時に迷うことなく行動が出来ると思う。

その他気づいた点、疑問点など

- ・ 学習、交友関係、家庭環境、身体的・精神的な悩みをたくさん抱える思春期の生徒が、誰かに相談したくても出来ない時があって、そんな時に体調不良を理由に保健室を訪ねることもあると思われるので、そんな時に養護教諭がゆっくりと対応出来るような環境にして欲しい。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・日本大学の付属校らしく、日本大学の各学部の担当者に出席していただいたの進路説明会を実施して日本大学への進学を優先して指導している。
- ・日本大学への進学について進学率 60%ということで、先生方の指導の結果だと思う。また、生徒を 1 人 1 人良く指導していただき、それぞれの生徒に合った進路指導をしてくださっている。
- ・今年度の付属の入試システムが大きく変わる中で、キャリア教育・日本大学進学情報・他大学に関する情報が適切に伝えられている。
- ・中学生の時から日本大学の各学部の見学が行われていて、生徒にとっては日本大学の付属生としての自覚を持ち、進学に向けての情報収集を得られる良い機会である。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・都内で理数科のある唯一の女子校ということで、理系の教育に力を入れていて実績も上昇している。
- ・中学の時期より、大学進学を念頭に入れたカリキュラムが組み込まれている。
- ・生徒が将来就きたい職業へのキャリアデザインがイメージ出来るように、日本大学の各学部の見学や卒業生及び日本大学の学生による講演・進路相談等をしてくださり、恵まれた環境に置かれている。
- ・キャリア教育の面では、英語力を強化していただき国際的に活躍する生徒が増えて良いと思う。
- ・理工学部が文化祭に参加して、大学に対する興味を持たせ将来の夢・目標を見つけられるように高校と大学が連携している。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・理数科があることで理系のクラスと合わせて医学、歯学、薬学、看護などへの進学率が内外共に高まる一方で、文系も理数科のような特進コースを設けて国公立対策を図るなどの改革が必要。
- ・基礎学力到達度テストによる早い時期の進路決定によって生徒達の学習意欲（モチベーション）が下がらないように意識改革をしながら指導して欲しい。
- ・理工学部や生物資源科学部だけではなくて、他の学部のキャンパスの紹介・見学をして欲しい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・日本大学の直属の付属校で、さらに唯一の女子校ということで、名実共に実績・レベルを上げていかななくてはならない中で、生徒が安心して日本大学に進学出来る環境にして欲しい。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・地域の小学校の児童や保護者の方々を対象に英会話教室や算数教室を実施して交流を図り親交を深めている。
- ・近年、生徒指導よりも保護者との関わりが難しいと言われている中で、保護者会の時を活用して懇親会を企画して先生と保護者とのコミュニケーションの場になっている。
- ・音楽部や吹奏楽部が地域でクリスマスコンサートを行い、地域の住民の方と交流を深めて豊山女子の素晴らしさをアピールしている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・体育祭や文化祭などの学校行事の際には、先生と生徒が協力して近隣の皆さまにしっかりと挨拶したりして近隣への気配りの対応がしっかりしている。
- ・生徒達が地域の小学校と連携して発表・協力することで生徒達も自信に繋がると思う。
- ・文化祭にたくさんの近隣の住民の方々が来校されていて、学校行事の理解に繋がっている。
- ・音楽部や吹奏楽部が地域で発表会をしたり、ダンス部が施設を訪問して活動していることは地域との交流・理解を深めることで大変に素晴らしいと思う。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・地域の小学校の児童の保護者と行なっているような交流を本校の在校生の保護者とも実施して、先生と保護者との交流を深める機会を作って欲しい。
- ・文化祭は生徒達の日頃の成果の発表の場であり生徒同士・生徒と保護者・先生と生徒・そして学校と地域の方々との交流の場としてとても大切かつ重要な行事であるので、基礎学力到達度テストの日程を考慮しながら、生徒達をもっと準備に時間をかけられるように検討が必要。そうすることで更に充実し、地域に根ざす文化祭になると思う。
- ・小学校だけではなく、中学校とも交流出来れば高校入試にも繋がって効果はある。

その他気づいた点、疑問点など

- ・地域の住民の皆さま・保護者の皆さまのご理解とご協力があってこそその学校だと思うので、生徒の登下校のマナーの徹底を強化して、地域の皆さまや他校の生徒から「さすが豊山女子の生徒」と言われるような校風作りに徹して欲しい。
- ・通学路での先生方の立哨指導があっても良い。生徒の意識が変わるし近隣の皆さまの学校への評価も変わってくると思う。

全体評価

評価概況

- ・今年度の秋桜祭の開催が、基礎学力到達度テストの日程の関係で2週間早まり9月初旬となった。学力到達度テストを受験する高校3年生の参加が少なくなり、例年よりもやや寂しい感じの秋桜祭となった。
- ・10月下旬から文化週間として新しい試みが開催されて、校外学習の展示や授業で作成した作品などがたくさん展示されていた。中学の授業参観と重なったこともあって、たくさんの保護者の方が来校されて作品を鑑賞されていた。秋桜祭で展示するよりも来校された生徒のご家族の方がとても熱心に鑑賞されていたので、とても良い展示方法だと感じた。
- ・生徒会、体育部、文化部の中学生と高校生の代表の生徒と面談をさせていただいた。全員にほぼ同じような質問をしたが、どの生徒も「学校がとても楽しい」と笑顔で語ってくれたのが非常に印象的で、豊山女子の素晴らしさを感じた。
- ・秋桜祭に、たくさんの卒業生が来校していたのも素晴らしいと感じた。公立の学校では、先生の人事異動があるため卒業してから母校を訪問する機会は少なくなるが、私立の学校の良さを強く感じた。生徒達にとって母校は何でも相談できる故郷であるから、いつ訪問しても懐かしい先生に会えて色々と報告・相談が出来る環境になっていることは素敵なことだと思う。

評価できる点

- ・「生徒の安全、危機管理」「保健衛生に関する指導・相談体制」「キャリア教育と日本大学への進学指導」「保護者、地域とのコミュニケーション」の全ての標題について、学校の生徒に対する意識の高さを強く感じた。全ての点において生徒の安全を第一に様々なマニュアルを作成して、それを学校が一体となって実践している。
- ・学校の文化祭にたくさんの保護者、卒業生、地域の方々が来校されるのは、それだけ学校が魅力的だからだと思う。地域にこのような素晴らしい学校があって地域の皆さまの誇りになるような学校に、我が娘を通わせている学校がこんなにも素晴らしい学校だと評価してくださる学校に、そして何よりも通っている生徒自身が豊山女子に通っていることを誇りに思える学校に、そんな学校になっていると思う。
- ・日本大学の直属の付属校で唯一の女子校として名実共に評価されるように、生徒の安全面・健康面・進学・保護者や地域との関わりの点で、学校が一体となって生徒と向き合っている努力していると思う。

改善すべき点

- ・通学路を中心に地域の住民からのクレームはまだ無くなるようだから、生徒を集めての集会やホームルームを活用してしっかりとした指導をして欲しい。
- ・女子校としての身だしなみをもう一度認識して厳しく指導して欲しい。
- ・様々なマニュアルを定期的に見直し、改善しながらさらに高度なマニュアルにて生徒を管理して欲しい。
- ・日本大学に進学するための基礎学力到達度テストの兼ね合いで文化祭などの行事の日程や内容が変更になったりしたが、生徒達が伸び伸びと思う存分に活躍出来るように検討して欲しい。

その他感想

- ・今回、このような学校評価をやらせていただき、豊山女子が素晴らしい学園であることを改めて感じました。先生と生徒が一体となって共に協力し合ってより良い学校を築いています。
- ・様々なマニュアルを活用して生徒の安全を第一に、これからも努力して欲しいです。
- ・日本大学の付属校として勉強に運動にさらに努力して実力を上げて欲しいです。
- ・他の学校と明らかに違うのは、学校と保護者との関係がとても良いことです。今後も保護者をはじめ地域住民から信頼される学校になっていくことを期待します。

平成27年度 日本大学三島高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、三島高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者5名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

2,000人余の生徒の登下校の通学路における安全の確保。老朽化した建物の今後の計画・見直しについて。安全点検は点検票により具体的に定め記入されるように工夫され、事故発生の未然防止に役立っています。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

いじめ被害を見るポイント等具体的事例が示され、情報管理まで含めたマニュアルの完成度は高く、大規模災害の発災時の対応についても如何に生徒の安全を確保するかがしっかり示されています。防災・減災のための備品や非常用食料も充分確保されています。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

全職員（非常勤職員も含めて）が「危機管理マニュアル」の内容を熟知し、必要な事柄は生徒・家庭にも周知徹底する。また、保護者に対しても発災時には一斉に報知できるような工夫を検討する。

その他気づいた点、疑問点など

情報伝達ツールの急激な発展に伴う新たないじめ、被害者や加害者にならないことなど、自然災害、人為的テロ行為等への対応等、たえず「危機管理マニュアル」の検討見直しが必要です。発災時における交通機関の停止を想定した下校訓練を実施してみることも検討をする必要があると思います。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

精神衛生も含めて生徒の健康、衛生管理、また精神的な面に問題を持つ生徒への取り組みはどのようになっているか。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

カウンセラー（臨床心理士）の常置。生徒目線の優しい「保健室だより」。講師職員も含めた全職員が生徒の相談に対応。教室・廊下・生徒昇降口等掲示物等がよく管理され、生徒作成のポスター等の水準が高い。行き届いた清掃指導により校舎内外の清潔が保たれています。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

障害（心身）に対する理解を深めるために教職員のなお一層の研修の充実。生徒を囲む担任、部指導者等あらゆる関係者の連携による問題解決のための方法を事前に構築しておくと思えます。

その他気づいた点、疑問点など

該当職員の共通理解のもと、担任が一人で問題を抱え込まないシステムになっているか。相談室（保健室）に現れない問題を抱えた生徒の発掘。長期的に教室に入れない保健室利用生徒への対応。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

附属高・中学校としての生徒の生涯設計を見据えた進路指導。日本大学への進学、有名私立大学、国公立大学への進学実績。3学年後半の日本大学への進学決定者と一般試験を受ける生徒の学習に対するモチベーションの違いをどのように指導するか。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

県下一の大規模校ですが、個々の学習集団は小さく、教員・生徒による和やかな雰囲気のもと、概ね双方向による授業が展開され、放課後も個別に指導をする姿が見られます。附属校として学部見学、大学授業体験などに取り組み、土曜日の有効活用が図られています。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

真の国際人を育てる意味でも日本文化・日本精神を学び、身に着ける機会を増やしたいと思います。進路目標実現の為に学習手順が分かるような教育課程表の示し方を工夫する。日本大学への進学等、一貫・特進クラスを含めてなお一層の進路目標を実現できるよう願います。

その他気づいた点、疑問点など

三年次においても進路目標を設定できずにいる生徒や、試験結果によって行ける大学・学部を選ばざるを得ず進学した生徒が期待した学生生活が送れているか検証する必要はないでしょうか。各教科のシラバスの進捗目標が達成されているかどうか教科で十分に検討して頂きたいと思います。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

広域・遠距離からの通学生の地域・通学状況の理解。地域の本校に対する期待。それらが当該校の教育とどのように関わっているか。保護者会の桜陵祭への参加や協力体制はどのようになっているのか。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

遠距離広範囲の地区保護者会に校長はじめ、関係職員が出席、生徒をとりまく地域・通学環境の理解を深めている。三島市及び周辺の市町での生徒会・部活動・委員会活動等多面的な活動を通して地域に発信し、地域からの理解を得られるよう努めており、活性化にも役立っています。

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

学校の様子をホームページ，広報誌，マスコミ等により積極的に発信し，授業参観・クラス別懇談会等では多くの保護者が参加するように出席を促し，学校と保護者の相互理解をますます深めたい。

その他気づいた点，疑問点など

外部に対してより積極的に学校の自己アピールをするとともに親しまれる資質を持った生徒たちに対する卒業生・地域の教育力にも期待したい。

全体評価

評価概況
<p>教育方針である「自由と規律」とともに教育目標が掲げられていますが、方針に沿って教育目標を目指して教育活動が展開されているかを念頭に置きながら評価を行いました。</p> <p>グラウンドの人工芝化、校舎の建て替え等施設設備の整備事業は大きく進展し、三島市の文教地区とも言われる素晴らしい地域環境の中で教育活動が展開されています。限られた時間と資料の中での評価ですが全体的にみて歴代校長先生をはじめ、教職員が一丸となって教育活動に当たり、適切な運営が図られて来ており高い評価のレベルにあります。忌憚なく評価された意見は当該校に対する限りない期待と強い帰属意識の表れでもあります。</p>
評価できる点
<p>教職員と生徒が非常に親密感をもって接しており、概ね授業は対話型の双方向による授業が展開されていると見ました。日本大学付属高校全体の生徒アンケートによりますと、「大体当てはまる」を含めて8割以上の生徒が積極的に授業に参加していると回答しており、当該校もこれに漏れるものではありません。学校規模は大きいですが学習集団は細分化され、生徒一人ひとりのニーズを確実に把握しながら丁寧に指導する先生方の姿が見られ、指導の徹底、学力の向上に大きく役割を果たしています。</p> <p>運動部や文化部における全国大会等への出場・活躍は学校を活性化し、地域に明るい話題を提供しています。学校で展開される教育活動のすべての基本は「安全」という観点からすれば、当該校の危機管理マニュアルは丁寧に非常によくできています。</p> <p>多感な青少年時代の多くの生徒の中には悩みを抱えた生徒もいることは想像に難くありませんが、カウンセラー（心理療法士）が常置されていることは心強いことです。</p>
改善すべき点
<p>限りなく期待は大きくなりますが、日本大学、有名私立大学、国公立大学への進学について一貫・特進クラスはもとより進学・国際クラスの生徒・保護者の進路目標の実現のため、生徒へのなお一層の叱咤激励を先生方をお願いしたい。放課後、夏季休業中の自主学習を部活動との調和を図りながら一層の活発化を図りたい。授業改善の研修を深め、教科のシラバスについて授業の進捗状況など検討し、改善を図る必要があります。</p> <p>危機管理マニュアルは非常勤職員をも含めて全員が熟知し、発災時における対応の混乱防止を図る。マニュアルに基づいて日頃の安全管理を徹底し、危機を生じさせない気構えが求められます。</p> <p>適応障害を持つ生徒の増加とそれらの生徒への対応について教職員、保護者を含めて講習を行うことや増えてきたそれらの生徒の部屋の確保も検討する必要性が生じてくると思います。</p> <p>日本大学の附属中・高校の一員として真の国際人を育成する意味でも「日本精神」「日本文化」を学ぶ機会が生徒にあるとよいと思います。</p>

その他感想

創設時僅か300名弱の生徒数の学校が現在、静岡県下の大規模校に成長発展し、54,000人の卒業生を創設以来送り出しています。当該校の成長発展に伴い地域社会に果たす役割は大きく、学校・卒業生が一体となって築き上げてきた「学校の信用」「ブランド」は大切にされなければなりません。

日頃の素晴らしい教育活動はホームページやマスコミを通じて積極的に地域に発表し、理解を得られるよう努めていただきたいと思います。

学校は保護者・生徒の「進路目標の実現が如何であるか。」しっかりとした出口を保証し、明るい希望に満ちた未来に立たせてくれる学校が評価されるといっても過言ではありません。先生方は多忙であり、神経をすり減らす事の連続が毎日であろうかと思いますが、職務を精選し、生徒に寄り添いなお一層のレベルアップを図りますよう期待しています。

平成27年度 日本大学明誠高等学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、明誠高等学校より依頼を受けた外部評価者4名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・AEDや担架など適切に配置され、緊急時の対応が速やかに行える。
- ・校舎の老朽化に伴う、耐震対策等の対応も完了し、安全に学校生活を送れる。
また、階段の手すりの設置、強度等も対策が成されている。
- ・昨今他校でも行われているが、インターネットを使ったブログの配信により、学校の状況や対応が生徒だけでなく保護者も知ることができる。
- ・緊急時対応備品の設置状態が大変良かった。
- ・体育館の耐震工事が完成したら生徒の安全安心が守られること。それに伴い体育館が有効利用されることと、地域の方々の災害時の避難所として活用されること。
- ・防災用の備蓄庫の設置場所が、災害を想定し適していると思われた。また、備蓄品も定期的に追加入れ替え等を行われていた。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・定期的に行われている通学路上での先生方による生徒指導・立門指導
- ・生徒に対する災害への対応
- ・緊急時やトイレの防犯ベル、移動授業時のクラスの施錠状態
- ・地震・火災等の災害に備えて、校舎の各階に消火器・防火用ホース・指示用モニターテレビの設置や生徒一人ひとりに用意されたヘルメット等の災害用具や非常食が完備されていること。
- ・生徒のイスに設置された、“防災頭巾”また、“非常食”等、生徒一人ひとりに対する緊急避難用備品の準備
- ・体育館の耐震工事に伴い、館内の照明をLEDに交換され地域の広域避難場所としての活用が期待される。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・手間と費用が掛かるが、登校・下校時の磁気カードによる生徒チェック
- ・広域避難場所（体育館）までの通路の確保。高台にあるのでそこまでの誘導路が現在1本しかないので、倒壊等があると行くことが困難になることが考えられる。

その他気づいた点、疑問点など

- ・女子生徒の更衣室の設置（女子更衣室はあるが狭い）。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・定期的に行われている健康チェック
- ・トイレや手洗い場がいつも清潔に保たれ、手洗い洗剤なども配置され風邪やインフルエンザなどの予防対策も成されている。
- ・保健室、相談室等の環境が整っていた。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・保健室はとても明るく清潔感あふれる場所で、生徒相談室はドアを閉めると密閉状態になり生徒の声も外部に漏れない部屋であった。また、保健衛生の先生の対応状況が良く、明るい笑顔での対応に生徒も気軽に保健室と相談室に入室できると思われた。
- ・保健室の明るい環境作り

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・2つ校舎に保健室がなく、また、保健室までの距離がある。体調が悪い生徒にとっては移動が厳しいので、各校舎に休憩室が欲しい。

その他気づいた点、疑問点など

- ・2つ校舎に保健室がない。体調不良者の対応、連絡はどのようにしているのか。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・20年間以上明誠高校の生徒を見てきていますが、先生方の熱心な指導によりここ6～7年前から生徒の質は良くなったと思われる。それに伴い、日本大学への進学率も向上しており今後もさらに伸びることが期待される。
- ・学校が教育目標に向かって全教職員が取り組んでいるように感じた。
- ・日本大学への進学に関して、進路指導部を中心に保護者会、面談を通して極め細やかに行われている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・生徒のモチベーションを向上させる教育・指導を行っている。
- ・生徒指導、進路指導にも教員が熱心に取り組んでいた。
- ・進路指導は、入学から卒業まで極め細やかに頻繁に行われているように感じた。
- ・授業参観で拝見した授業では、少人数制での専門的な内容の授業が行われており、保護者も安心できる体制であると思われた。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・生徒一人ひとりに対して、その子のレベルに合ったきめ細かい指導をして頂くことを望む。

その他気づいた点、疑問点など

特にございませぬ。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・地元（上野原市）の駅伝競走大会などにも積極的に参加し、イベントを盛り上げている。
- ・ダンス・チア部の多くのイベントへの参加により学校の良き広報マンの役割を担っている。
- ・誠祭は地域に認知されており、来校する中学生からお年寄りまで明誠高校の校風を知ってもらえるよい機会だと思われる。また、学園祭とは別に体育祭を公開することで、子供の普段の学校での様子を親が知ることができる。
- ・保護者と密に連絡を取り連携ができていように感じた。
- ・地域の方々が積極的に学校行事に参加しているように感じた。
- ・上野原駅伝をはじめとして地域行事への参加。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・通学路でのゴミ拾い、降雪時の除雪作業などのボランティア活動は、素晴らしいことであると思われる、地域の方々からも感謝されている。
- ・後援会と学校が一体となって活動していると思われた。
- ・定期的に通学路の清掃を行っていることが評価される。特に、2年前の大雪の際には、大勢の生徒が町内の多くの歩道の除雪作業を行い、地域住民に大変感謝された。
- ・降雪時の通学路等の除雪作業をはじめとしての校内外美化、清掃活動を通しての地域との交流活動。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・登下校の際、通学路を横に並んで通学し、交通の妨げになることがあるので、学校内での通学路に関するマナーの徹底を今一度お願いしたい。

その他気づいた点、疑問点など

特にございませぬ。

全体評価

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・生徒の安全，危機管理面において，体育館の耐震工事に伴い照明機器をLEDに変更しその耐久性を考慮し上野原町の広域避難所としての活用を考えている。また，防災用備蓄品の確保等にも学校としてしっかりと対処されていた。・保健衛生面でも，明るく衛生的な保健室，生徒相談室の整備等生徒の心と体の健康管理をしっかりと考えられていた。・キャリア教育と日本大学への進学指導面でも，進路指導部が中心となって日本大学を始めとして各大学への進路指導が適切に成されていた。・保護者，地域とのコミュニケーションについて 上野原駅伝をはじめとして，地域との関係を密に持っていた。
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・生徒の安全，危機管理について 危機備品の管理が適切であった。特に屋外（プレハブ倉庫）に単独で設置されていることで，大規模地震等で校舎備品庫が倒壊した場合に，単独の建物であるため対応が素早く行えると考えられる。・保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について 保健室と相談室が近いので，身体面，精神面の両面での対応が早く行える。・キャリア教育と日本大学への進学指導について 進路指導部が中心となって生徒一人ひとりにあった進路指導を行っている。その成果が貴校の進学率に反映している。・保護者，地域とのコミュニケーションについて 文化祭，上野原駅伝等を通して地元の町と密にコミュニケーションを持って地域の活性化の一助となっている。
改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・学校施設において，保健室が管理棟にしかない。校舎が2棟から体調不良者の移動等に時間を要する。また，2棟校舎の一方にしか教員室がないので，緊急時の連絡が遅れることが懸念されることなどから，校舎の各階に緊急用の電話の設置，2棟の校舎に生徒控え室，教員室の設置が望まれる。
その他感想
特にございません。

平成27年度 日本大学山形高等学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、日本大学山形高等学校より依頼を受けた外部評価者3名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・ SNSの普及により、いじめや人権侵害が複雑で表面化しにくく、事件や犯罪に巻き込まれやすくなっていること。
- ・ 安心・安全な環境作りを目的とした、生活指導年間計画及び各係年間計画・役割分担等の充実が図られているか。
- ・ 校舎等の耐震診断とその対応について。

当該校の取り組みについて優れていると認められた点

- ・ 安全管理規程やマニュアル等を作成し、役割分担が徹底されており各学年の教員が全体で対応できる体制ができている。
- ・ いじめアンケートの実施ならびに、いじめ防止の標語やポスター作製により、いじめの無い学校づくりを推進している。
- ・ 人権侵害への取り組みは国際的にも強く求められているが、ガイドラインやパンフレットを作成し、防止・問題解決に取り組んでいる。
- ・ 安全や非行防止の対応として、警察や専門機関を活用した生徒向けの研修会や講習会を、事前指導として実施している。
- ・ 総合運動場管理棟や部室等の耐震診断を実施している。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・ 校舎、建物の老朽化と耐震性についての改善と、新校舎建設計画が財政上の理由から取りやめになったことによる、今後の計画についての方針等の明示。
- ・ 大規模災害時の緊急避難場所としての役割について、関係団体との連絡協議と、安全管理規程やマニュアルを運用するための計画的な訓練、役割分担を確認するためのシステムづくりが必要である。

その他気づいた点、疑問点など

- ・ 頭髪服装検査について、基準が教員によって異なるのは困るなどの意見があったため改善が必要と思われる。
- ・ 学校の雰囲気は、色々な人が頑張っていて過ごしやすいとの事で、挨拶もしっかりでき爽やかな印象を持った。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保健管理・保健教育などの計画が作成され、全体で取り組む体制が出来ているか。
- ・生徒の健康状況の把握や特別支援教育の必要な生徒への対応が出来ているか。
- ・精神疾患や不登校傾向の生徒への対応が出来ているか。
- ・インターカー取得の教職員が多く、悩みごとの相談をしやすい環境にあるか。
- ・早期発見早期対応で問題の深刻化を防止しているか。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・年度当初に、生徒の情報交換を全教員で行っており、情報管理も適切に行っている。
- ・生徒指導と連携して、「10代の性」の講話を行っている。生徒も必要性を感じており、講話などの計画的な指導が機能している。
- ・生徒の環境への意識が浸透しており、ペットボトルや燃えるゴミなどのゴミの分別が行われている。
- ・保健室や生徒相談室の環境はよく整備されており、生徒が行きやすい環境にある。
- ・保健衛生について計画的に、授業でも教室内でも教育指導に取り組まれている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・特別支援教育が必要な生徒や、不登校傾向の生徒を指導するためのプロジェクトを中心とした指導体制が必要と思われる。特に不登校の生徒への対応については、分析した特徴を踏まえ、年度途中でのコース変更等の柔軟な対応も検討していただきたい。
- ・生徒指導部との連携による、カウンセラーやインターカー等との、有効な相談体制の確立を目指してほしい。
- ・本校の相談体制システムを定期的に生徒や保護者に周知するなど、生徒の状況の変化に対応するためのPR活動を行ってほしい。また、カウンセラーに該当生徒を繋ぐための担任の対応についての共通理解ができているか確認してほしい。
- ・不登校や発達障害など、担任が対応できる範囲を超える事例が多く出てくることを考えると、養護教諭が1名さらに週2回のカウンセラーの対応で事足りているのか疑問である。
- ・精神健康・不登校・いじめの件数がどこでも多くなってきている。各種防止委員会の充実（早期対応）が今後さらに必要と考える。
- ・新種のウイルス性感染症に警戒が必要であり、情報提供と予防、対応策の強化が必要と考える。
- ・生徒の深刻な問題に関して、匿名やメールを利用した対面でない相談が出来る体制の構築について検討していただきたい。
- ・清掃への取り組みや教室内の美化についてはクラスによる差異が大きく、担任の意識の違いによるものかを検証し、対応する必要があると感じた。

その他気づいた点、疑問点など

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・日本大学進学のための具体的な進学指導の在り方について。
- ・計画的な進路指導として、進路学習ノートを利用した入学から卒業までの3年間を通した流れが徹底されているか。
- ・各種講話・職業体験等の企画が充実しており、キャリア形成のための手立てとなっているか。
- ・全体的に進学率が高く、日本大学へはどの学部にも満遍なく進学者があり、国公立大学や私立難関大学にも進学者がいるか。
- ・各方面の進路希望に沿った指導と教育が幅広く行われているか。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・学年毎にキャリア学習の年間計画を作成し、一人一人の希望に沿ったキャリア学習を計画している。
- ・特進コース、進学コースのねらいがしっかりと生徒に理解されており、個に応じた教育が推進されている。
- ・日本大学への進学希望者に対する進路指導が丁寧に行われており、生徒は安心して受験できている。
- ・公務員講座や職業講話等を実施し、適切な進路指導を進めており、就職希望者は100%就職している。
- ・情報収集のための施設・設備・資料は十分に整っている。
- ・進路学習ノートに沿って、適切に指導が行われている。また、各種講話・職業体験をとおして、実社会の現状を理解した指導の充実がうかがえる。生徒達からは、早い段階での情報の提供もあるため、進路決定に役立っているとのことであった。
- ・自習室等も充実していて、遅くまで対応する教員の配置も出来ている点は評価できる。生徒が自主的・自発的に学び学習できる環境を整えていくことは大変重要と考える。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・大学進学者の自立的な進路選択や、見通しのある将来計画を持つことができるようなキャリア教育をさらに進める必要がある。大学に合格することが優先し、大学卒業後の職業や自分らしい生き方を考えることなく、学部や学科を選択する生徒が少なくなるようなキャリア教育になっているか検証してほしい。
- ・女子生徒の将来の職業を考えた進路選択が大きく影響しているようであるが、日本大学への女子の進学者が少ないように感じる。改善の必要性の有無も含めて検討が必要であると感じた。
- ・高大一貫という付属高校として進路が比較的約束されることで、学習に対する意欲の欠如が気になる。難関大学等の突破には、まだ改善の余地はあるかと思う。
- ・授業評価アンケートの結果から、家庭学習の一層の充実が必要であるという状況把握はできている。基礎学力到達度テストに向けて、生徒の意識改革と各学年における基礎学力の定着を如何に実現させていくか今後一層の努力と検討が必要と考える。
- ・インターンシップの参加者が少ないように思われる。昨今注目されている取り組みでもあり、将来の勤労観・職業観につながるため、進学希望の生徒であっても参加出来るように啓蒙してほしい。

その他気づいた点、疑問点など

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保護者や地域への情報発信の状況。
- ・保護者会活動が活発に行われているか。※地区保護者会との連携の充実
- ・地域の行事へ学校や生徒会の参加について。※地域との連携
- ・保護者会に対して非常に理解があり、OB会との連携も良い点。
- ・卒業生、保護者、生徒、先生方が学校との関りを大事にしていくことで、地域での評価を高めている点。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・地区保護者会を毎年実施し、生徒の様子を還元するとともに、保護者との連携を図っている。
- ・学園祭に保護者が出店をするなど、保護者と生徒の交流を意識した活動がある。
- ・保護者会との連携について、インターハイの応援・文化祭の手伝い・地区との交流などを通して、高い理解が得られている。
- ・地域との交流として、ボランティア（雪かき）・学園祭（寄付）、等、地域行事へ積極的に参加している。
- ・8つの地区保護者会が独自性を持って活動し、関わりのある多くの方々が地域からの生徒をしっかりと見守っている。
- ・HPを充実させ、情報を発信し理解を得ようとしている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・JRC（青少年赤十字）活動などのボランティア活動は行われているものの、地域への学校や生徒会の貢献があまり見えない。生徒も忙しく活動しているため、すべての生徒が関わることは難しいが、部活動単位や生徒会で希望者を募り実施するなどの方策も考えられる。
- ・一部の保護者は大変協力的であるが、多くの保護者からさらに理解していただく手立てを検討する必要がある。
- ・保護者との連携については、今後、益々重要になると思われる。保護者への情報の発信を積極的に行い、密なる交流を継続していくべきと考える。
- ・地域との関わりについて、生徒との面談の中でも、時間があればどんどんやりたいなどの意見が出されている。地域参加型のイベントへ参加する機会を増やすなど社会に貢献する機会を通して、生徒の何事にも主体的に取り組む意欲の育成に繋がることにより、地域の学校に対する理解も深まると思う。
- ・保護者会と生徒、地域が関わる事業は学園祭でのブース出店だけなので、他にも事業の企画があっても良いのではないかと。

その他気づいた点、疑問点など

- ・地域人材の活用・学校施設の開放及び地域行事への参加（地域清掃・交通指導・ボランティア）などによる地域交流を通して、学校を理解してもらうことは、少子化を迎えるにあたり今後益々重要と考える。

全体評価

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・今回の外部評価は、事前に取り組み事項を抽出し、評価のポイントを絞って実施されたため、課題、問題を明確にすることが出来た。・外部評価者の人選については、もう少し広く地域の方の意見を聞き、参考にできるとよい。・学校の組織としての取り組み体制、計画的な指導がされていることがわかり非常に良かった。
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・各種規程やマニュアル等を作成し、担当が明確になっており教員全体で対応が出来る体制が出来ている。・進路指導や生活指導において講話等を積極的に取り入れ、生徒の理解を得て計画的な指導が機能している。・自習室が充実しており、教員も遅くまで対応する等、生徒の学習環境が整えられている。・進学や就職の進路指導について、早期の情報提供等細かな指導がされている。
改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・頭髪検査や服装検査において、指導する基準が教員毎に曖昧な点があるとの意見があった。また清掃の取り組みもクラスによって差があると感じたが、これも担任の意識の差であり、組織として改善の努力が必要と思われる。・教育環境や社会状況の変化に対する迅速な対応が出来ている反面、様々な事業や行事の中止や変更による弊害が見られる。・不登校の生徒や特別支援が必要な生徒への対応について、相談室やカウンセラーが整備されているが、更なるプロジェクトチームの設置等、特別な指導体制が必要と思われる。
その他感想
<ul style="list-style-type: none">・日本大学進学のための統一テストの日程が9月に変更になり、今年度から学園祭を一学期に実施することになった。統一テスト（基礎学力到達度テスト）のシステム変更が生徒へ負担をかけている。本部に改善を求めてほしい。・生徒との面談を行ったが、進学コースと特進コースの生徒だったため、スポーツコースの生徒の話聞くことができなかった。幅広い人選も必要と思われる。・生徒指導上の服装点検など日常的な活動について生徒が肯定的に捉えている。また、いろいろなタイプの人がいて楽しいとの生徒からの評価もあり、伸び伸びと生活できる環境が整っていると考えられる。

平成27年度 日本大学習志野高等学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、習志野高等学校より依頼を受けた外部評価者3名の代表として、以下の通り外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

●交通安全

通学路を明確にし、教員による登校指導が適切に行われている。自転車通学者には毎年交通マナー講座の受講を義務付けが図られている。

●災害対策・防犯対策

防災への備えとして、①校舎が新しく耐震対策もしっかり取られている、②防災訓練が火災・地震など災害別に行われている、③食料・飲料水の備蓄なども万全の体制がとられている、など信頼性は高い。

●施設・設備（新校舎・グラウンド）の充実

災害以外の危機管理に関しても、①防犯カメラの設置、②AEDの設置と使用講習会の実施、③衛生管理（毎月実施される上水検査や疾病対応体制、保健施設）などが整っている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

●登校指導、自転車マナー講座、防災訓練、AED講座、教職員の防災研修など着実な取り組みを行っている。

●情報管理 日本大学と連携し情報管理を行っている。個人情報などマル秘情報の管理も教職員だけでなく、生徒へも啓蒙を図っている。

●ソーシャルメディア対応 インターネットの発展と共に注目されているソーシャルメディアの弊害（過度の依存や情報の拡散、出会い系・ストーカー・いじめの温床）についての教育を毎年それぞれ生徒向け、保護者向けに行い、被害を未然に防ぐべく対策を採っている。また、学校非公式サイト（いわゆる裏サイト）のパトロール、個人情報流失やネットいじめ対策について外部機関も活用し対策を取っている。

●船橋日大前駅から学校までの通学は、理工学部船橋キャンパス内を通るため、安全性は極めて高い。北習志野駅から学校までの通学についても通学指導等で安全性の確保は、十分に出来ている。また、体育館への専用陸橋が整備されており、安全に通行できる。

●新校舎は、耐震性・耐火性に優れており、防犯対策として最新鋭のカメラシステムが配備されている。

●AEDの適切な配置及び、AEDの使用法に関する講習を新任教員（専任教員及び非常勤講師）に実施している。平成27年度は、東京都本所防災センターにて全専任講師に対してAEDの使用法を含む防災研修を実施した。

●生徒も日大習志野高校生としての自信と誇りを持って、これらの取組について協力し行動をしている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- 防災用品の備蓄については、一通りの整備がなされているが、理工学部と連携して、防災備蓄について具体的な取り決め等を行っておくことが望ましい。また防災備蓄保管場所については損壊に備え、専用コンテナ等を配置する等の対策をとることが望ましい。
- AEDの講習については、地域の消防署とも連携して教員・生徒ともに普通救命講習等を受講できる機会を設けることが望ましい。

その他気づいた点、疑問点など

- グラウンドの人工芝化によって施設・設備は充実している。隣接する旧校舎は学部所有という事であるが、将来的には高校側で活用できるような形が望ましい。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 健康診断及びその事後対応・生徒相談室
- 特に保健室及び生徒相談室の整備状況
- 上水検査
- トイレ管理

健康診断は学校安全衛生法に則り実施され、学校医の東船橋病院と連携し生徒の個別健康相談も行っている。また最新の保健設備も整っている上、体育教員との連携による受け入れ態勢も取られている（専任の養護教諭不在時など）。上水の検査など適切に実施されている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- 心理相談

二名の臨床心理士と契約し、生徒や保護者は希望すれば毎週火曜と木曜日に専用の生徒相談室にてカウンセリングを受ける事が出来る。予約方法は教員・保健室経由のほか、直接申し込みも出来、他の人の目に触れないようプライバシー保護にも注意している。そのお陰で相談者は着実にふえているとのことである（相談内容として多いのは、自身の性格や家族についてなど様々）。

思春期の子どもは、心理的に不安定で毎日悩みやストレスに追われ、精神的にも未発達なため、ちょっとしたことで精神的につらい日々を送るものと思われる。そうした中で、最も大切な事は「誰かに相談する」ことであろう。そういった意味で、心理相談のもつ意味は、大変重要であると感ずる。

●定期健康診断及び臨時健康診断、健康相談等が未受診者への対応も含め、計画的かつ適切に実施できている。特に学校医と学校歯科医による健康相談が定期的に行われ、行事等の運営にも活用できている。

- 安全・健康指導が効果をあげ、保健室の負傷・疾病等の来室者が減少している。

●保健室及び生徒相談室は新校舎の整備とともに、利便性を考慮した施設としての機能を備えている。感染症予防等のポスターや新聞記事等も廊下掲示板等に掲示され、生徒の目に留まるように工夫されている。

- 最重要課題のひとつにトイレ施設の充実と完備がある。ほぼ完璧といえる状態に整備されており、

保健衛生はもとより、様々な波及的な良結果に繋がっていると思われる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

●心因性の問題における保健室及び相談室への来室者が増えており、相談しやすい環境が整備されていることのあらわれであるが、保健衛生部だけでなく、学校全体で組織的に生徒の心の問題について研修会を行うなど取組を企画してほしい。

●学校ホームページを通して保健衛生関係の情報提供の充実（保健だよりや感染症情報等）が望まれる。

その他気づいた点、疑問点など

●特記事項なし

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

●進路指導

●キャリア教育・キャリアレポート

1年次に進路適性検査や校外学習などで適正や職業意識づけを行い文系・理系の選択を行う。

2年次より、文系は2コース（NP = 国公立進学，GA = 総合進学），理系は3コース（NP = 国公立進学，GA = 総合進学，CST = 日本大学理工学部進学）に分けられ、受験内容や進路に対応したカリキュラムが組まれる。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

●日本大学理工学部と同一キャンパス内に設置されているという利点を生かし、高大連携教育として構内での講演会や高校開放科目等を履修できるなどキャンパスのメリットを生かした教育が行われている（大学の施設も利用できる上、大学の先生による進路アドバイスを得られる）。

●3年生は希望により科目履修生として大学の授業に出席することが出来、よりハイレベルな知識が得られる上、CSTコースでは理工学部入学後の単位として認定されている。

●GA、NPとコースを設置した事により、進路指導・キャリア教育も含め、効果的に行うことが出来る。

●キャリアレポートの紙面は生徒の興味・関心を喚起する内容となっている。直近から比較的若い卒業生が取材対象となっていることが良い。紙面レイアウトも現役高校生が飽きないつくりになっていることも評価できる。その他進路指導部作成の冊子等も質の高いものとなっている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

●保護者の中には、上記のCSTコースのメリットを知らない人もけっこういるので、保護者への更なる周知も必要と思われる。

●CSTコースについては、更なる発展が期待される。習志野高等学校の生徒の学力レベルは総じて高いので、特に優れた生徒は「飛び入学」の対象にする等、同一キャンパスのメリットを高めていく必要

であり、理工学部との連携をより前進させていくことが望ましい。

●上記に加え、理工学部以外の学部との連携の強化が望まれる。キャンパスも近く、併設附属高校を持たない薬学部との連携も模索が可能であると思われる。本校は理工学部の併設校であるが、設立の経緯からも理工学部と関連の深い薬学部との連携を行うことにより日本大学への進学にはプラスになることが予想される。また日本大学理工学部以外の学部（特に文系学部）との連携教育も強化していく必要がある。NP コース・GA コースについても、進学先を問わず進学意欲、大学での学習意欲の向上という部分では意味あることと思われる。

その他気づいた点、疑問点など

●今後の高大接続改革に対する計画及び方策について。

☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 後援会組織の充実
- 地域との連携と教育活動への還元・地域貢献活動
- 保護者会当日の公開授業

後援会は、各クラス保護者から最低1名の後援会役員が選ばれ、年7回ほど役員会がひらかれ、学校長・教頭・教務・生活指導・学年主任や学校スタッフとの情報、意見交換の場として活用されている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- 後援会で、いわゆるPTA活動における強制的な負担は全く無く、情報、意見交換の場として利用されている。
- 後援会による奨学金制度及び部活動への支援が充実している。
- 定例のクラス保護者会や各種行事ごとの保護者説明会等は適切に開催され、十分にその役割を果たしている。保護者会当日の授業を公開授業（保護者参観）という形で実施している点は評価できる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- 後援会活動については、保護者への還元として、大学併設校のメリットを活かし、大学教員や習志野高校教諭による保護者や地域住民向けの講演会等の企画等の実施なども検討していく必要がある。
- 地域に愛される学校として、地域との連携強化が望まれる。中学校を併設していないので、受験者の獲得も含め、地域の小中学校との連携策を検討する事が望ましい。生徒会やチアリーディング部による地域貢献も評価できるが、他の部活動等にも貢献できる余地は十分あると考えられる。

その他気づいた点、疑問点など

●生徒会役員の生徒と面談した際には、生徒なりのアイデアを持ち、地域との連携等についても考えている点は少なくない。教員がサポートし生徒会活動を強化できる余地は十分あると考える。

全体評価

評価概況
<p>●本年度は、上記4項目について評価を行うために、3回に亘り外部評価会議を持ち、関連する施設を中心とした施設見学、教頭及び、担当分掌（生活指導・保健衛生・進路指導）の主任より評価項目について説明を受けた。</p> <p>授業見学、生徒会役員の生徒との面談も行い、評価項目を中心に、生徒の目線による学校の現状について質疑応答を行った。</p> <p>評価委員のすべてから、本校の教育活動は、ほとんどの項目について充実した取組みとなっており、高い水準にあるとの評価を得られた。</p>
評価できる点
<p>●新校舎の建築とともに安全性の高い施設・設備が充実している。その後の施設整備（人工芝グラウンド・体育館専用陸橋等）においても、安全性を十分に考慮したものとなっている。</p> <p>●日本大学の付属高校のメリットを活かしながら、各自の進路目標に合わせて多様な進路が選択できるコースが設定されている。</p> <p>●CST コースでは、直接大学教員の指導が受けられる高大連携の先進的な形態となっている。</p> <p>●キャリア教育について、キャリアレポートや16歳の仕事塾等を実施して生徒に考えるきっかけを与えるものとなっている。</p> <p>●保健衛生活動については組織的にかつ適切に運営が出来ている。特に健康診断の実施状況は、定期はもちろん臨時（行事前）を実施し万全といえる。</p> <p>●後援会等の奨学金制度が充実している。</p>
改善すべき点
<p>●防災対応については、一通りの対策が講じてあるが更なる充実を図ることが望ましい。</p> <p>●CST コースについては、理工学部の併設校であるメリットを活かし、学校を特色付ける先進的な取組みを導入する事が望ましい。</p> <p>●理工学部以外にも日本大学のスケールメリットを活かし各学部との連携を構築する事が望ましい。</p> <p>●保護者連携及び地域連携については現状より更に発展させ、地域に愛される学校を目指してほしい。</p>
その他感想
<p>その他全体的な活動について下記の点につき質疑応答があった。</p> <p>●英語教育について</p> <p>当校ではグローバル教育の一環として、3年間を通してALTとのチームティーチングの授業を展開しており、現在月曜日～金曜日まで3名の外国人講師が常駐している。</p> <p>世界共通言語としての英語力の向上が一層求められる時代となっており、当校では特に「発信力」に重点を置き、ALTによる授業で自らの意見を自由に表現でき、さらには主張する力の養成を目指している。</p> <p>さらに、英語科教員を対象としたケンブリッジ大学による「英語教授法スキルアップ研修」（英国に3</p>

週間滞在)に参加し、最新の外国語教授法の習得に向け研鑽を続けている。

また今後の方針として、大学受験にも十分対応できる英作文の指導能力を兼ね備えた ALT の登用など ALT による授業をさらに充実、発展させていく予定である。

また生徒に対しては現在、2年生を対象としたロンドン(ケンブリッジ・オックスフォード)への修学旅行を実施しており、また夏には希望者を対象とした英国シェフィールドへの3週間の海外語学研修を実施している。これ以外にも、本校生徒が海外留学に出来る環境を目指し、他の付属各校の例を参考に、カリキュラムの改善、評価方法の見直し等を図っている。

●授業理解不足者への対応について

3年生に対しては、受験科目を中心に放課後の補習を実施し、この中で授業理解不足者への対応を図っている。また教科担任ごとに放課後を使って、生徒への個別質問対応にあたっており、放課後、各教室棟のコモンスペース、生徒ラウンジには生徒が集まり、即興の質問コーナーが出来て、各教科の教員が生徒の指導にあっている姿が見かけられることができる。

●IT機器の利用について

今後広く求められる、生徒を主体とした「アクティブ・ラーニング」を推進していくために、タブレット機器をはじめとしたIT機器の導入を検討している。既に、日大理工学部とのLAN共有など、最新のIT環境が整備されているが、28年にICT教育推進のための委員会を立ち上げる計画で、その準備段階として、情報化教員を中心としたグループで学校訪問や研究会への参加を行っている。

●ホームページについて

広報担当教諭の管理の下プライバシーにも気を付けながら、学校情報の発信に役立てている。

●さらに、委員からの要望と感想として

○英語教育、IT活用、ホームページやWEBを使った学校の情報発信については、今後も充実を継続してほしい。

○生徒会役員の生徒との面談を通じて、学校の満足度は高いと感じた。一方、優秀な生徒がゆえに学校に対してなかなか意見が言いづらい部分があるようである。生徒会担当教員と役員生徒とのコミュニケーションをより深めていく事がより良い発展のために望ましいと感じた。

○評価者が勤務する学校に欠けているものが、習志野高等学校の評価を行うことによってより具体化したと感じる。習志野高等学校の良い面は勤務校にも応用できると思う。また、逆に勤務校での良い取組は、外部評価会議で提言できたと思う。今後も相乗効果を生むような提言が両校の間で活発になることが望ましい形であると実感した。

○生徒の入学したい学校として、また入学してよかった高等学校の県下トップ校としての地位を、今後とも維持、さらに発展させる工夫と努力を大いに期待している。

以 上

平成27年度 日本大学東北高等学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、日本大学東北高等学校より依頼を受けた外部評価者3名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・いじめに対する対応
- ・生活安全指導の実施
- ・交通委員会における挨拶運動の実施
- ・メールシステムの完備
- ・新校舎建設に向けての対応

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・安全管理規定・マニュアルが適切に整備されている。
- ・緊急時のメール配信
- ・いじめアンケートの実施及びいじめ防止の啓蒙指導などを通して、いじめのない学校づくりを推進している。
- ・安全や非行防止に向け、学年集会などを利用した生徒への指導及び保護者への協力依頼など細部にわたって対策を講じている。
- ・自転車の二重ロック（7割達成）
- ・危険な校舎をいち早く解体し、着実に安心安全な校舎建設に向け取り組んでいる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・作成されている安全管理規定・マニュアルを運用するための更なる計画的な訓練や役割分担を確認するシステムづくりが必要と思われる。
- ・いじめ防止の取り組みが行われていることにより、生徒達は学校生活に充実感を味わい、また、友人関係が円満であると感じている。さらにいじめのない学校づくりの継続に向けた、生徒会・生徒自らが主体となるような取り組みを策定し、自浄作用によるさらなる居心地の良い学校をめざしてほしい。
- ・安全や非行防止に警察や専門機関を活用した、生徒向けの研修会や講習会実施に向けた取り組みの導入をしてほしい。
- ・現在防犯カメラの設置はされていないが、新校舎建設計画にカメラ設置を加え、更なる学園全体の安全に努めてほしい。
- ・貴重品管理などの指導及び定期的な集会を通じ盗難防止を図られているが、盗難ゼロとは言えない状況にあるようである（特に部活中）。さらに指導を望むと共に貴重品を管理するロッカーの設置が必要であると思う（各部活用は設置されているが、個人用のロッカーは未設置）。

その他気づいた点、疑問点など

- ・ 1号館など古い建物の教室の鍵が閉まりづらい。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・ 生徒の健康状況の把握やケアを要する生徒への対応
- ・ 校内の美化や清掃指導について

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・ 指導体制が整備され、さらに役割分担がしっかりしている。
- ・ 「性について」の講話を行っている。生徒も必要性を感じており、講話などの計画的な指導が機能している。
- ・ 校内美化については、清掃指導が徹底され、生徒の美化意識も高い。
- ・ 外部機関と連携を図り、適切な対応・指導を行っている。また、情報管理も適切に行っている。
- ・ 相談体制システムを定期的に生徒や保護者に周知するなど、生徒の状況の変化に対応するための広報活動を行っている。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・ 教室内の美化意識や清掃への取り組み方に、若干クラスにより差異があるようである。指導担当者の意識の違いによるものかなどを検証し、対応する必要があると感じた。
- ・ 生活指導部との連携によるカウンセラーやインテーカーなどとの有効な相談体制の更なる確立をめざしてほしい。
- ・ 不登校傾向の生徒や特別支援教育が必要な生徒を指導するための充実した指導体制が必要と思われる。特に、来年度から施行される障害者差別解消法（私学については当面、合理的配慮の不提供禁止事項は努力義務であるが）の観点からしても最重要課題と認識する。

その他気づいた点、疑問点など

- ・ 特に無し

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・計画的な進路指導の実践
- ・キャリア形成のための工夫
- ・進路アドバイザーの配置
- ・生徒の希望に即した進路ガイダンス
- ・日本大学への進学のための具体的な進学指導の在り方
- ・オープンキャンパスによる体験

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・学年ごとにキャリア学習の年間計画を作成し、一人一人の社会的・職業的自立形成に沿ったキャリア学習を計画、実践している。
- ・社会人（赤十字の看護師）の話等、経験に基づいた体験が聞ける。
- ・Ⅰコース、Ⅱコースのねらいがしっかりと生徒に理解されており、個々に応じた教育が推進されている。
- ・日本大学への進学希望者に対する進路指導が丁寧に行っている。
- ・隣接する工学部との交流で先輩からの助言が受けられる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・大学に合格することが優先し、大学卒業後の職業や自分らしい生き方を考えることなく、学部や学科を選択する生徒が少なくなるようなキャリア教育になっているか検証し、大学進学者の自立的な進路選択や見通しのある将来計画をもつことができるようなキャリア教育をさらに進められることを期待したい。
- ・進路指導室を活用している生徒が限定されていないか。積極性がない生徒を根気強く導いてほしい。
- ・日本大学進学テストの日程が9月に変更になり、生徒に動揺と不安感がまだあるようである（特に運動部所属生徒及びⅡコースの生徒）。さらに安心して受験できる指導を期待したい。
- ・2学年で文系・理系を選択する際、生徒と保護者に戸惑いがある。入学段階から詳しく丁寧な指導を望む。

その他気づいた点、疑問点など

- ・1，2年生は進路についての意識が足りないのではないか。

☆保護者，地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点，特に注目した取り組み

- ・保護者や地域への情報発信の状況
- ・保護者対象の授業参観
- ・学校及び生徒会の地域への貢献
- ・ボランティア活動
- ・アカシア祭の開催

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・各種学校行事などへの見学及び参加を促し，開かれた学校教育活動をしている。
- ・保護者対象の各種講演会，説明会，学級懇談会を通して，学校の取り組みの開示や生徒の様子，また，各種の情報発信することにより，より充実した保護者連携の教育が実践されている。
- ・HPを充実させ，情報を発信し，理解を得ようとしている。
- ・毎年開催されている「アカシア祭」で保護者，地域の方々と学校がより身近なものになっている。

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

- ・一部の委員会で社会奉仕活動などの活動は実施しているものの，地域への学校全体や生徒会の更なる活動（貢献）を期待する。参加している生徒には達成感はあるようであるが，全体に活動が波及しないことを嘆いている。クラス単位，学年単位，部活動単位など組織ごとの参加方法も考えられる。生徒に，活動を通しての充実感・達成感を実感させる教育，地域から学校への期待が深まるような活動を期待する。
- ・地域とのコミュニケーションの機会を増やす。特に就職希望者の生徒には教師以外の大人と接する機会を増やすべきである。狭い範囲でなく，もっと周りをよく見て，自分の頭で考える習慣を付けさせるには，大人からの働きかけが必要である。
- ・県内全域から生徒が集まっているのは，郡山市にとっても重要な位置づけにあると思われる。高大一貫の良さ，施設の素晴らしさを地域にもっと発信して，行政も巻き込んだコミュニケーションの場を創っていくべきだと思う。

その他気づいた点，疑問点など

- ・特に無し

全体評価

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・安全管理マニュアルを適切に整備し、生徒の安全指導を一番に考えた学校運営に取り組んでいる事が素晴らしいと感じた。震災以降様々に変化する状況に対応し続け、学校本来の安心安全を確保していくために、新校舎建設に向けたプラン立てに取り組んでいることも評価したい。・心のケアでは、生徒の変化を見逃さないような配慮がされている。学校内外の専門者や生徒自ら相談できるような環境や、家庭との連携などきめ細やかなシステムが構築されている。思春期における性の問題はとてもデリケートであり、計画的に講話がもたれていることで子供達が間違った方向へ行かないように指導されている。・キャリア教育が生徒それぞれの進路決定に役立っている。日本大学への進学をまず一番に考えられることで生徒達の選択の幅がかえって広がっていると感じる。最終的に生徒保護者の満足度がアップになっている。・適宜行われる講演会、進路説明会が保護者の不安を解消している。HPの活用により地域保護者への情報発信がなされており、中学生へのアピールになっている。
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・全般的に地域に根ざした学校運営がよりブランド力を高めていると思う。日本大学の正付属校である強みを生かして地域への信頼を得られている。 子供達の未知なる可能性をより引き出してくれる期待感もたれることで、学校の存在感が増している。高大一貫校ということで地域になくってはならない学校になっている。
改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・生徒の成長や時代にあったシステム作りは絶えず必要である。新校舎建設計画も様々な状況を踏まえて準備して欲しい。特に校内生活の安全を第一により幅広い意見を取り入れて臨んで頂きたい。
その他感想
<ul style="list-style-type: none">・現在も素晴らしい環境で高校生活を満喫できていると思う。震災以降特別な環境が続いていたことをしっかりと記録し、災害から学んだことを後世に伝えて頂きたい。

平成27年度日本大学附属高等学校・中学校 外部評価実施要項

1 目的

附属高等学校・中学校では、平成18年度から自己点検・評価を実施し、年度末にその結果を「学校自己評価票」としてまとめ、社会に公表している。

また、学外者の視点から自己点検・評価の妥当性を検証するとともに学校に期待される役割を認識し、更なる学校改善推進の契機とするため平成21年度から3年ごとに外部評価を行うこととし、前回は平成24年度に外部評価を実施した。

この間、平成22年7月には、文部科学省の「学校評価ガイドライン」が改正され第三者評価の在り方についても充実が図られており、平成27年度は、その趣旨に基づき、学校関係者評価、第三者評価の要素を加味したかたちで外部評価を企画・実施する。

2 方法

各学校複数名の評価者により当該校の評価を行う。

なお、平成26年度に実施した学校自己点検・評価項目の中から、特に以下の4つの事項を抽出し、当該校での取り組みや指導体制について評価を願う。このほか、評価者が特に必要と認める項目がある場合は、当該校ごとに適宜追加する。

- ① 生徒の安全、危機管理について
- ② 保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について
- ③ キャリア教育と日本大学への進学指導について
- ④ 保護者、地域とのコミュニケーションについて

評価は、以下に掲げる学校からの提供資料によるほか、学校行事、施設設備等の見学、生徒との面談による。

評価結果は、各評価者に別紙様式により「外部評価票」を作成いただいた上で、学校ごとに評価者の互選による代表者が各評価者の外部評価票を総括し、当該校の外部評価結果報告書を作成する。

3 評価の際の資料

- ① 当該校の概要を示す資料（学校案内、学校要覧等）
- ② 評価項目に関する資料
- ③ 全学自己点検・評価報告書（平成26年度）

4 外部評価者の人選

外部評価者は、各学校で以下の①～③に該当する者の中からそれぞれ1名以上とし、合計3～5名とする。

外部評価者は、附属高等学校評価専門委員会委員長決定の上、大学が委嘱する。

なお、①、②に該当する者は、当該校からの推薦に基づくこととし、③に該当する者は、該当者の所属校長の推薦に基づくこととする。

- ① 保護者
- ② 保護者以外の学校関係者（地域の関係者，教育産業従事者，その他有識者）
- ③ 本学付属高等学校・中学校教員

5 実施スケジュール

- ・ 外部評価者の人選（4月～5月頃）
↓
- ・ 外部評価者に対する実施説明会 — 外部評価の趣旨，実施方法，資料説明等（6月～7月頃：各校で開催）
↓
- ・ 外部評価者による学校視察，生徒との面談等（7月～11月頃：各校）
↓
- ・ 外部評価者による「外部評価票」作成（11月頃：各校）
↓
- ・ 当該校と外部評価者による意見交換会
- ・ 各校の外部評価代表者からの外部評価報告書提出（12月頃：監査課）
↓
- ・ 外部評価結果の報告・公表（1月～3月頃）
↓
- ・ 外部評価結果の活用

以 上

平成27年度 日本大学附属高等学校等外部評価票

評価対象学校名

評価者氏名 _____

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

その他気づいた点、疑問点など

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

その他気づいた点、疑問点など

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点，特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

その他気づいた点，疑問点など

☆保護者，地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点，特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

その他気づいた点，疑問点など

※このほか，特に必要と認めた項目がある場合は，上記各項目に準じて評価結果を追加記述
願います。

平成27年度 日本大学〇〇高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、〇〇高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者〇名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

総括担当者氏名 _____

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

その他気づいた点、疑問点など

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

その他気づいた点、疑問点など

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点，特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

その他気づいた点，疑問点など

☆保護者，地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点，特に注目した取り組み

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

改善が必要と思われる点，今後望まれる取り組み

その他気づいた点，疑問点など

全体評価

(各評価項目またはその他全体的な活動の中でお気づきの点があれば御記入ください)

評価概況
評価できる点
改善すべき点
その他感想